聖徒の道　1977年3月20日発行（毎月1回20日発行）　第21巻第3号
昭和42年12月18日第3種郵便物認可

# 聖徒の道

3 1977

末日聖徒イエス・キリスト教会

**大管長会**

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

**十二使徒評議員会**

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
デルバート・L・ステイプレー
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トーマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ヘイト

**諮問委員会**

ゴードン・B・ヒンクレー
マービン・J・アシュトン
L・トム・ペリー
マリオン・D・ハンクス
ジェームズ・A・カリモア
ロバート・D・ヘイルズ

**教会誌編集主幹**

ディーン・L・ラーセン

**国際機関誌**

ラリー・ヒラー（編集主幹）
キャロル・ラーセン（編集副主幹）
ロジャー・ギリング（デザイナー）

**「聖徒の道」**

八木沼　修一（日本語コーディネーター）

1977年 **3月号**

# もくじ

扶助協会その将来と可能性……スペンサー・W・キンボール……181
姉妹一人一人が大切です……バーバラ・B・スミス……183
福音は女性の生活を変える……キャロル・ラーセン……184
「自分は価値があるんだって思えるの」……イルマ・ド・マッケナ……188
母親失格と思うときに……クローディア・T・ゴーテス……190
村の鐘……ヘイゼル・M・トムソン……193
ペンバルの改宗……ヘレン・パッテン……196
運河のいちば……シェリー・ジョンソン……198
質疑応答……201
思索することが必要です……スーザン・ヒル……202
愛する先祖たち……リンダ・K・ホフマン……204
心の目……208
ニュース……209

**聖徒の道3月号**

発行所　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5－8－10
配　送　東京ディストリビューション・センター
東京都港区南麻布5－8－8
定　価　年間予約1,700円　1部150円
海外予約1,700円

INTERNATIONAL MAGAZINE Printed in Japan

郵便振替口座番号　東京0－41512
口座名　末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

大管長会メッセージ

# 扶助協会
## その将来と可能性

大管長
スペンサー・W・キンボール

今月号に教会の婦人たちの特集を組むのはまことに似つかわしい。3月17日は，扶助協会というユニークな組織の創立135回記念日にあたる。「神権組織にならって組織する」，予言者ジョセフ・スミスは自分たちの会を作りたいと望んだ数人の婦人たちにこう語った。

さらに次のように述べている。「扶助協会が組織されて初めて，この教会は十分な組織を持つに至った。」（*Story of the Organization of the Relief Society*『扶助協会設立の経緯』「扶助協会誌」1919年3月号　p. 129）こうして各地の末日聖徒の婦人がひとつの団体にまとまり，現在では，若い女性の組織が若い姉妹たちに祝福をもたらすのと同様に，扶助協会はこの団体の活動に参加するすべての女性たちに祝福をもたらしている。

扶助協会に活発に参加していない女性たちは，この集まりに与えられる大きな約束を知らないのではないだろうか。予言者ジョセフ・スミスが扶助協会について告げた祝福か

ら幾つか挙げてみよう。

1．この協会，姉妹たちの会は「あなた方の天性に従って」組織された。「あなた方は今や，神があなた方の胸に植えられた思いやりの心に従って行動できる状況に置かれている。」（*History of the Church*「教会歴史」4：605）

2．「この協会が，教会の長を通じて与えられる全能者の勧告に聞き従うならば，彼女たちは王妃にもまさる権威を持つことであろう。」（「教会歴史」4：605）

3．「あなた方がその特権に恥じない生活をするならば，天使たちはあなた方の友とならざるを得ない。」（「教会歴史」4：605）

4．「今から後，知識と英知とが流れ下るであろう。」（「教会歴史」4：607）

5．「この協会は喜びとなる。」（「教会歴史」4：607）

これらの約束は様々な形で実現していると思う。自分自身のことを考えてみると，愛する妻は扶助協会の召しを受けて福音の原則を教える機会を得た。そしてその準備のために毎年聖典を学んできた。その結果，私たちの家族には啓示のみたまが注がれている。また慈善奉仕や家庭訪問を行なって友情を深めてきた妻には，何か優しく温かいものが感じられる。扶助協会の姉妹たちは，行ないによって，救い主への従順と神の王国における犠牲を示している。彼女たちは共に学び，共に成長しつつ，お互いを強め合っている。また，人々に心を配るという自分の召しの重大さに対する証と，その責任にあって援助を求めるときに主が助けて下さるという知識を共に分かち合っている。

大勢の姉妹たちの忠実な行ないと，義のために捧げる不動の献身には頭が下がる。私自身の素晴らしい母親の日記には，奉仕の機会を喜び，力が足りないことだけ嘆く彼女の一生が記録されている。最近，1900年1月16日付の箇所を読んで，思わずほほえんだ。当時彼女はアリゾナ州サッチャーの扶助協会第一副会長をしていた。その日，赤ん坊が病気のために縫い物のできない姉妹の家へ，会長会全員で訪問した。母は自分のミシンと昼食とベビー椅子を持ち，自分の赤ん坊を連れて出かけた。その夜の日記には，「エプロン4枚，ズボン4着を仕上げ，男の子用のシャツ1枚がまだ未完成」とある。4時には葬儀に行くため縫い物を切り上げなければならず，「これが精一杯だった」と書いている。もしもその場に居合わせれば，たったそれだけなら大したことはないなどと考えず，むしろ，それだけできたことに感心したことだろう。その2日後，私の家で扶助協会の仕事会が開かれた。母は，「出席者が多く，仕事が随分はかどった」と書いている。その仕事会が終わってから，母は不平も言わず管理会に出かけて行った。

私が生まれたのはそのような家庭であった。奉仕の精神に満ちあふれた女性によって導かれた家庭であった。私の妻もこのような家庭を築いてきた。さらにまた，教会の大勢の立派な姉妹たちも夫や子供のためにこのような家庭を築いている。私は，こうした家庭における成功は扶助協会の理想と実践に負うところが大であると堅く信じている。

私たち大管長会は，扶助協会から豊かな祝福が得られることを強く感じており，ステーキ部，伝道部，地方部の会長に，扶助協会の出席を奨励するよう，また扶助協会の姉妹たちの活動から神権者と家族が大きな力を得ることを兄弟たちに理解してもらうように要請した。また特に，独身女性の扶助協会出席を奨励するようお願いしたい。

扶助協会は女性のための主の組織である。これは，兄弟たちに施される神権の教育を補足するものである。この組織には力があるが，まだ完全にはシオンの家庭を強め，神の王国を築くに至っていない。姉妹と神権者が共に扶助協会のビジョンをよく理解して初めて，その力は完全に発揮されるのである。

このソルトレークの第15ワード部扶助協会の議事録に，教訓とすべき価値ある事柄が載っている。この組織は，サラ・M・キンボールという立派な女性，私とは関係ないが，彼女によって1868年の創立以来40年間管理されていた。1870年後半になって扶助協会が全ワード部で組織されたとき，兄弟たちの中にはそのプログラムを理解せず，全面的な支持を怠った者が見受けられた。しかし，このワード部の監督は扶助協会を理解し，重んじた。彼は1878年1月8日，扶助協会に副監督を送って話をさせた。副監督であるバインダー兄弟は監督の愛を伝えて，「姉妹たちが神権者との境界を越えるのを少しも恐れていない」と語り，自分の「支持と信仰」を彼女たちに述べた。次いで，特に大切なことをつけ加えている。彼は，「監督や副監督が支持していると同じように心から」姉妹たちが自分たちの役員を支持することを願っていると語った。（第15ワード部扶助協会議事録より）

私たちもこのメッセージに同感である。私たちは，姉妹の皆さんが扶助協会の指導者を，私たちが支持していると同じように真心から誠実に支持することを願っている。スミス姉妹と副会長の姉妹たちは立派な方々である。彼女たちは日々の生活において，また物事を決定する時にみたまの導きを求める。また召された重大な責任に対しては忠実な管理人である。さらに十二使徒評議員会の担当アドバイザーと心をひとつにして働き，あらゆる点で神権を支持している。私たちは彼女たちを愛し，信頼し，支持している。

現在この教会に属しているということは大きな祝福である。義に対する抵抗はかつてなく大きいが，最高の可能性を追求する機会もまたかつてないほどに大きい。

では，私たちにはどのような可能性があるのだろうか。神のようになれるという可能性がそれである。その大いなる可能性を実現するためには，どのような特質を伸ばさな

ければならないだろうか。幾つかのことが考えられる。

第一に，英知すなわち光明と知識である。この点について，女性にはどのような機会があるだろうか。予言者ジョセフ・スミスが姉妹たちに，これらの特質を約束したことを覚えておいでであろう。私たちは人に教えるときに最も良く学べるものである。従って，扶助協会の姉妹たちは家庭や日曜学校や初等協会，扶助協会，聖餐会，あるいは日常の会話で子供たちに教えるとき，毎日この約束が実現されるのである。教える責任に召されている姉妹たちは，教える対象の人々と同時に自分自身のためにも永遠に価値あるものを築いている。そのことを認識し，勉強と祈りによって自分の召しを全力を尽くして遂行していただきたい。すべての姉妹たちは学校や扶助協会で，またひとりで勉強するときに，光明と知識を受ける機会を有効に使うようにお勧めする。

第二は指導性である。女性には，指導性を伸ばす独特の機会がある。人になすべきことを命じたり，すべての物事に決定を下してあげたりすることが指導だと考えてはいないだろうか。そうではないのである。指導性とは，所期の目標に向かって最善を尽くすように人々を励ます能力のことである。完全をめざして子供たちを導く母親や，共に成長しようと，毎日夫と語り合う妻以上に，大きな機会に恵まれた人がいるだろうか。教会の補助組織や地域社会で，女性の指導に負うところは計り知れないほど大きい。

そして最後に，神性の根幹をなすものと思われるのが，思いやりと愛である。人への奉仕に示される思いやり，無私の心，他人への関心の最高の表現であるこれらのものを，私たちは愛と呼ぶ。扶助協会は，姉妹たちに慈悲，仁愛，博愛の心を表わす機会を実際に提供している。そのほかにも奉仕の場がある。社会と，そして特に家庭である。姉妹たちは，女性固有の性質に忠実に，愛の奉仕の機会を最大限に生かすときに，さらに神に近い者となりつつあるのである。

私がここで述べたのは，御自身に似た者となるようにと，神が娘たちに与えられる特別な祝福のほんの数例に過ぎない。神の息子たちにはまた彼らの機会がある。知恵と慈悲に富んでおられる御父は，可能性の完全な開花をめざして，男と女を互いに依存し合う者とされた。男女の性質は幾分相違する。従って，互いに補い合えるのである。また多くの点で似通っている。従って互いに理解することができる。互いの相違をうらやむことなく，その相違の根本に流れる大切なものが何であり，また何が単に表面的なものかを認識し，状況に合った適切な行動を取ろうではないか。願わくは神権者の兄弟と扶助協会の姉妹の組織が，この教会のすべての教会員の生活を祝福するものとなり，互いに助け合いながら完全への道を歩まんことを。

☆　　☆

# 姉妹一人一人が大切です

扶助協会中央管理会会長
バーバラ・B・スミス

予言者ジョセフ・スミスは，教会を設立した後に女性による扶助協会を組織し，その扶助協会は回復された教会の一部になりました。女性は主の計画の中で，また福音が栄えた時代にはいつも重きを置かれ，正しい目的のために組織されました。また現在も組織されています。この偉大な扶助協会の活動は，昔の予言者たちが約束した万物の回復の一部です。主の目から見て，扶助協会は完全な福音の計画にとって欠かすことのできないものなのです。

扶助協会の目的は，姉妹たちに愛の奉仕をもっと有効に行なうよう奨励し，奉仕の場を提供すること，また様々な教育プログラムの機会を提供することです。社会が絶えず大きく変化している世の中で，女性が教育を受け，自覚を持ち，福音の教えにかなった選択をするには，それなりの指導が必要です。その中には，福音の原則や社交性について学ぶこと，また世界各国の姉妹とその家庭について知ることも扶助協会の教育プログラムに含まれています。互いに助け合い，奉仕し合うためには，扶助協会の組織と，扶助協会からの励ましがいつも必要です。

教会の姉妹たちは，善を生み出す大きな源です。姉妹たちの賜や能力，才能は何と豊かなことでしょう。私は姉妹たちの大きな力を目にして知っています。

扶助協会は単なる内輪の奉仕にとどまらず，はるかに大きなビジョンを持っています。まず，私たちは自ら進歩し，他の人々に祝福をもたらします。自分のことを二の次にして他人に奉仕することは，キリストが私たち全員に求めておられることです。従って，私たちはこのビジョンを掲げるのです。そうする過程で，私たちは自分自身を発見します。教会員の仕事は，自分にできるすべてのことを願い，説明し，示し，決め，行なって，愛する兄弟姉妹に主のみこころを教えることです。私たちは恥じることなく救い主のその目標を追い求めます。

もし私が世界中の末日聖徒の女性一人一人と話ができるとしたら，是非とも申し上げたいことがあります。それは一人一人が神の王国にとってどんなに大切かということ，各自の才能や能力，賜，また一番の喜びは，神の王国の中で最大限に実り，実現するということ，万物の回復の一部として，主の家の姉妹たちのために主がひとつの組織を回復して下さったということです。この扶助協会はすべての姉妹たちにとって実に豊かな充実した経験となり，彼女たちの成長を助け，また彼女たちがほかの人々の成長を手伝うのを助けてくれます。これはキリストの取られた方法そのものなのです。

# 福音は女性の生活を変える

キャロル・ラーセン

福音は世界中の女性の生活にどのような影響を与えているだろうか。昔ながらの女性の役割は，福音によってどのように変化しているだろうか。また，福音はどのような葛藤を生んでいるだろうか。女性の生活は，福音を通してどのように改善されただろうか。

全世界の末日聖徒の女性についての記事を企画した当初，私たちは非常に異なった回答が寄せられるものとある程度の期待を抱いていた。しかしその結果は，アルゼンチン・キルメスステーキ部ラプラタ第一ワード部扶助協会の副会長であり，南米4ヵ国に住んだ経験をもつアンジェラ・ルボミルスキー姉妹の言葉に要約される。彼女は次のように述べている。「コスタリカでもアルゼンチンでも，末日聖徒の家庭はみんな同じです。善を愛し善を求める人々は，音楽や話す言葉は違っても，衣服が違っても，似たりよったりの生活をしています。

私たちは皆，女性として最高の女性になる必要があります。愛し愛されたい，理解したい，受け入れられたい，自己達成をしたい，自己を表現したい，私たちはそう願っています。私たちはまた，心から神様の道を知りたいと望んでいます。扶助協会はこうしたすべての面で，私たちの教師であり導き手なのです。」

末日聖徒の女性は世界中どこに行っても同じであることがわかれば，確かな勇気を得ることができる。世界は次第に狭くなり，異国の姉妹たちの話題は他人ごとではなくなってきている。女性が一般的に持っている徳は，生活に福音がもたらされたときに完全なものとなる。生活に目的が生まれるからである。末日聖徒の女性は同じ価値観を持った他の女性と扶助協会を通じて友情を築く。彼女たちは自分の生命が永遠であることを知っているので，神権者の伴侶としての役割と，母親として主婦としてのそれぞれの役割を受け入れている。彼女たちはまた，福音に生きる女性として，男性と同様に証を持っており，聖霊の賜などの祝福を享受している。

姉妹たちは年齢を越えて，各自の持っている創作的才能を他の姉妹たちと分かち合っている。コペンハーゲン第一ワード部のペトラ・エルドマン姉妹が退職したとき，友達は彼女が隠居生活に耐えられるだろうかと思った。「でも，現に私は以前よりもっと多くの時間を使っているんですよ」

と，エルドマン姉妹は言う。彼女と70歳以上の姉妹たち全員は毎週月曜日の午後，集会を開いている。エルドマン姉妹は言う。「私たちは神様のみ言葉を学び，素晴らしいひとときを過ごします。そして暗くならないうちに家に帰ります。年配の姉妹たちは年一回のバザーに備えて編物をしたり，クローセ編みをしたり，縫い物をしたりするのが楽しみなのです。」

メキシコ・ベラクルス伝道部の扶助協会の顧問であり，伝道部長夫人であるマリア・テレサ・P・デ・パレデス姉妹は，次のように述べている。「教会に活発であれば，自分でも気づかなかった才能が発揮できて驚いてしまうことがあります。女性は福音を学び，学んだ正しい原則を毎日の生活に応用してゆけば，より立派な女性となり，家族や地域社会にさらに貢献できるようになるのです。」

ベネズエラ・ミランダのヘンリエッタ・P・デ・ゴンザレス姉妹は，このような個人の成長について次のように語っている。「数年前，私は字のほとんど読めない謙遜な姉妹と面接しました。彼女は扶助協会の教養の教師に召されていました。彼女は自分の召しのことで私に助けを求めに来たのです。あるとき，私は彼女に，レッスンに出てくる場所を示すには地図を使えば便利であると話しました。ところがこの姉妹は地図がどういうものなのかわからなかったのです。彼女はもっと主によく仕えることができるように，夜間学校に入って勉強するつもりであると話してくれました。私は彼女のこの言葉を聞いて，感謝の気持で一杯になり，思わず涙が出てしまいました。」

イサベル・マカン姉妹。アルゼンチン・キルメスステーキ部キルメスワード部で社会の教師をしている彼女は，主の教会の会員となるとき多くの女性が経験する生活の変化を取り上げ，その顕著な例を次のように紹介している。

「彼女はみすぼらしい小屋に住んでいました。その不潔なだらしない格好から，彼女が非常に貧しい生活をしていることが伺えました。何の心配をするでもなく，差掛け屋根の小屋に起居して生活していたのです。当時の彼女を知る人はこう言います。『彼女はまるでもぐらが穴に入ったり出たりするように，家を出入りしていました。目標も方向もなかったのです。行く当てのない空虚な生活，それが彼女のすべてでした。』

ふたりの宣教師の訪問を受けたのはその頃です。彼女は宣教師の携えてきたメッセージを受け入れ，教会に入り，扶助協会にも熱心に参加しました。その結果，彼女の生活は大きく変わりました。見すぼらしかった家は念入りに掃除し，ペンキをかけ，家具を備えつけたので，見違えるほどきれいになりました。

以前の彼女を知っている人々にとって，彼女の今の証は信じられないものではなくなっています。何の希望もない人間から，信仰によって活動的で清潔な身だしなみのよい人間へと，すっかり変わってしまったのです。現在の彼女の希望は，自分の境遇に打ち勝って隣人に奉仕し，主の戒めに従った生活をすることです。主の使徒がアルゼンチンに来られたとき，この姉妹は使徒の話を聞きにブエノスアイレスまで45キロの道を歩いて行きました。彼女は自分の信仰を表わしたのです。」

次はアルゼンチンから遠く離れた台湾。台湾の教育に対する熱の入れ方は大変なもので，高等教育を受けることは社会で成功するひとつの物差しとなっている。チェン・リン・シューリャン姉妹は，彼女と同じ支部の姉妹で，以前は無学を理由に自分を全く価値のない人間だと思っていた姉妹のことについて話してくれた。この女性は自分の外見に一切とんちゃくしない人で，彼女の夫が家に居ることは滅多になかった。そこで同じ支部の何人かの姉妹たちは，彼女が神の美しい娘であり，自分を悪く思う理由はどこにもないことを気づかせようとした。「彼女は新しい技術を身につけ，自分ではそれまでわからなかった才能にも気づきました。今では身なりにも気を配るようになっています。また，夫が家を空けることもなくなったので，幸福な日々を送っています。」

フィンランドからは，福音がひとりの姉妹の命を救ったというアネレ・フェリン姉妹の報告である。フェリン姉妹は次のように記している。「これといった理由があるわけでもないのに，長い間ずっと彼女は憂うつでみじめな気持でした。家族はどちらかといえば幸福な方で，彼女にはふたりの幼い男の子がありましたが，それでも空しさは消せず，生きることが何の意味もないように思えました。彼女の人生には目的も喜びもないようでした。彼女は眠られぬ夜を過ごし，泣いてしまうこともたびたびありました。そんなある夜，彼女はとりわけ気が滅入っていたようです。言いようのない空しさとつまらなさに襲われた彼女は，自殺を考えました。そしてひざまずいて祈りを捧げましたが，苦しみの余り彼女は，だれかそこにいるのなら私を助けて下さいと叫びました。宣教師が彼女の家にやって来たのはその翌日でした。宣教師は彼女に，神は骨肉の体を持った触知し得る御方であることを話しました。『やっと長い間求めていたものを見つけた。』彼女は宣教師のメッセージを聞いてそう思いました。神に関する真理を知ったことで，彼女は求めていた心の平安を得ることができたのです。教会に入って，人生の重要な目的を知り，またふたりの子供の母親としての役割の重要さと夫を支え励ますことの重要さを理解してから，彼女は自分の務めを果たすことに喜びを感じるようになりました。御主人はまだ教会の会員ではありませんが，彼女は生気にあふれた自分に幸福を感じています。」

これまでの例でわかるように，それぞれの女性の生活に変化が生じた最大の理由は，女性の役割に対する末日聖徒の考え方にある。

末日聖徒の女性は基本的に世界中同じであり，教会の教えも同一である。しかしながら女性の役割についての考え方は個々の社会によって様々である。多くの社会では，女性は全く男性に服従することが望まれているが，他方ではいわゆる女性の解放が非常に進んでいる社会もある。しかし，

多くの社会は，まだ産みの苦しみの時期にある。そのために，教会に入る時点で明らかになる女性の役割がどんなことであっても，末日聖徒になることは闘いなのである。末日聖徒の女性観は独特のものであり，現存する社会のどの考え方とも異なっている。末日聖徒は女性を完全な者となる可能性を具えた神の子供として，また夫の伴侶，助け手として見るのである。

ではここで，末日聖徒の女性の住んでいる社会の伝統をもう少し詳しく調べてみることにしよう。次のような状態は，他の多くの国々にも見られることであろう。

「メキシコでは多くの女性が教会に加入していますが，中には教会に入ろうと決心したことで大変な悩みや苦しみを味わう人もいます。彼女たちの確信が両親や夫や子供たちに受け入れられない場合が多いのです」とメキシコ・ベラクルス伝道部のマリア・テレサ・P・デ・パレデス姉妹は語る。彼女はまた，このようにも語っている。「メキシコは，家族がまだ先祖伝来の慣習を熱心に守っている伝統の国です。女性の行動を子供のときから律する規準や慣習があるのです。一般に女性は早婚で，すべてを投げ打って家族に尽くします。家の外で働くことはめったにありません。

女性は教会に入ると，まず自分の時間を教会と家庭に分けなければなりません。そして家族が，教会という要素が入ってきたために変化してきた日課に慣れるようにしなければならないのです。夫が教会員の場合，妻は夫や子供たちの支持を得ているので何も問題はないのですが，夫が教会員でない場合は多くの障害があります。夫に従うべきか，宗教上の義務を果たすべきか，選択を迫られることもあります。ほとんどの場合，妻は夫がいつか自分の信仰を理解してくれるだろうという希望を持って，夫に従っています。」

サモアにおける女性の役割は今，変わりつつある。

サモア・アピア伝道部の伝道部長夫人，マリアハ・ペテルス姉妹は，教会に改宗した最初のフィージー人の女性であり，家族で神殿に行った最初の人でもある。伝道部長夫人という立場にある彼女は，サモアの姉妹たちと親しくなり，彼女たちからサモアの文化について学んだ。姉妹は，福音がサモアの家族生活に及ぼした影響を次のように述べている。

「昔の家族関係は違っていました。昔は，夫と妻が一緒に同じ部屋でお客様をもてなすことは許されませんでしたし，子供たちは親と一緒に食事をとることができませんでした。子供たちの食事はいつも最後だったのです。妻は，求められれば夫の姉妹に従順に従わなければなりませんでした。また，妻や子供たちが重大な決定を下すときの話し合いにも加わることは全くありませんでした。すべて父親が決めていたのです。

でも今は，教会が多くの事柄を家族一緒に行なうように教えてくれています。宣教師が家族に家庭の夕べについて教え，両親はそこで子供の導き方を学びます。これが成果をあげています。家族が互いに自分の意見を述べ合って決断を下すことは素晴らしいことです。末日聖徒の家族はお年寄りの面倒も見ますし，互いに助け合っています。

家庭の中で一番大切なのは神権です。妻や子供たちは神権者を支持し，その権能を心から信じています。

姉妹たちは扶助協会が好きです。中でも特に楽しみにしているのは，ホームメーキングです。姉妹たちはそこで，家庭を改善し子供たちの健康増進を図ることについて学びます。

末日聖徒が強調する家族の一致は，一見，現在多くの国に広まっている傾向と対立しているかのように思われる。フランクフルト・ダルムシュタット地方部扶助協会の副会長ウルスラ・フォン・ゼルホウ姉妹は，そのような傾向が末日聖徒以外のドイツ人家庭にどのような影響を及ぼしているか，またそのような状況の中から教会に入ることがどんなに大変なことであるかを報告している。

「西ドイツの女性は，家族の一致ということに対して批判的な環境の中で生活しています。成人市民の約半数が結婚していますが，婚姻数は1960年代半ばから減少しています。一方，離婚率は年々増加の傾向にあります。離婚率から割り出してみると，実際の離婚数は相当な数に昇ることがわかります。多くの場合，離婚の主な原因は飲酒と不道徳行為です。また，一世帯当たりの子供数がひとりまたはふたりという家族が全世帯数の約40パーセントを占め，子供が3人以上の家族はわずか10パーセントになっています。出生数も減少の傾向にあるのです。

女性が競って職場に進出し，男性と肩を並べて働くようになり，経済的に夫から自立するようになりつつある状況の中で，末日聖徒の妻はますます苦しい立場に追いやられています。また高い生活水準を維持するために，夫だけの収入では生活していけないことが多々あることを感じています。

このような状況の中から最近改宗したある姉妹は，神権者に対して同じ立場に立とうとしていた自分に気づきました。彼女はそれまで，父親中心の家庭が時代遅れであるという考えを周囲の人々から吹き込まれてきたのですが，改宗によって急に夫のそばに新しい仕事を見つけなければなりませんでした。つまり夫を自分の導き手，信頼できる伴侶として受け入れ，支持するということです。」

スウェーデン・ストックホルムステーキ部の姉妹たちは，ステーキ部扶助協会会長のアンナ・リンドバック姉妹の指導の下に，自分たちが直面している問題について話し合っている。「現代のスウェーデンでは，自分の可能性を現実のものにしたいと望むならば女性も外に仕事を持つべきであると言われています。家庭外の事柄に目標を向けさせるこの考えは，学校教育や大学教育，ラジオ，新聞を通して

若人に強く訴えられています。子供たちのために託児所が建設され，結婚生活は夫と同じ権力を要求する妻たちの激しい攻撃に遭っています。

皆さんが新しい会員に，教会員になって一番変わったことは何かとお尋ねになれば，彼女たちは家庭や夫，それに子供たちを見る目が違ったことですと答えるでしょう。中には生活態度を変えることに困難を覚えた人もありました。でもお互いに尊敬し合うこと，また男性を家族の長として支持することがどんなに大切であるかを，だれもが異口同音に強調しています。

女性が仕事を離れて，子供たちと一緒に家庭にいることも大きく変わったことです。』

女性が教会から受ける最も大きな祝福は，夫が神権の原則に従った生活を送ることである。夫は思いやりといたわりの心で妻に接するようになる。夫にとって善悪を判断するための二重の標準はない。夫は家庭を「説服と堅忍と柔和と温情と偽らざる愛」によって治めるようになるのである（教義と聖約121：41）。

家族にとって神権がいかに重要であるかを語るのは，ストックホルム第二支部のブリット・ローゼ・リンドブロム姉妹である。「私は夫が神権を尊び，家族を管理してくれていることに感謝しています。子供たちは父親を心から愛し，尊敬しています。夫は子供たちの大の親友ですし，子供たちは夫を信頼しています。

11歳になる長男のミカールが，ある日私にこう言ったんです。『お母さん，僕にもお父さんを心から信頼できることがわかってきたよ。お父さんの言うようにすれば，何でもうまくいくんだもの。』」

チリ・ビニャデルマールステーキ部の扶助協会会長，イルマ・デ・マッケナ姉妹は次のようにつけ加える。「夫が教会に忠実で，神権を受けることができると，女性の生活は女性が夢見る以上に高められます。互いに支持し合ってそれぞれの召しを果たすのです。夫は，礼儀正しく親切になります。そして，妻が扶助協会や家庭訪問に出かけたり，おつき合いの場にも集えるように取り計らってくれます。多くの場合，夫は家にいて子供の面倒をみてくれますし，家事を手伝ってくれることもあります。子供たちと一緒に教会の集会に出席し，家族が福音の中で成長している姿ほど，美しく感動的なものはありません。』

しかし，すべての末日聖徒の女性がこのような理想的な家庭生活を営んでいるわけではない。どこの国にも常にある問題は，妻だけが教会に入って夫が入らない場合の夫と妻の関係である。いさかいをしてでも聖餐会に出るべきであろうか。それとも夫に従って家にとどまるべきだろうか。日曜日の集会の時間中，夫や子供たちのそばにいなくてもよいだろうか。教会員でない家族は，日曜日の集会が彼女にとってどんなに大切であるか理解することができない。妻がいつも自分に対して関心を寄せてくれていることに慣れきっている夫は，妻が他の人々のために時間を費やしているのを知ると，機嫌を損ねてしまうかもしれない。そして，妻は自分が家族の要求を無視していることを感じると，「明らかな良心」をもって福音の教えを学ぶことができなくなる。このような状態の中にあって，多くの姉妹が，一方では自分の信仰を実践することに，他方では良い家族関係を築くことに毎日努力を傾けている。

翻訳配送部の教科課程スペシャリストであるクレル・ベンチンは，次のように報告している。「ブラジルのサンパウロには，御主人からバプテスマの許しを得るまでに12年かかった女性がいます。その姉妹は以前もそうでしたが，今でも福音の真理に対する強い証を持っています。バプテスマを受けるまでの彼女は聖餐が配られるたびにいつも泣いていました。聖餐にあずかることができなかったからです。どれだけ嘆願し，断食し，祈り，神権指導者に働きかけたことでしょう。その結果，彼女の夫はついに彼女がバプテスマを受けることを許しました。しかしそれには条件がつきました。バプテスマの日がいつなのか知らせないで欲しいと言うのです。また，子供たちも彼女と同じようにバプテスマを望んでいましたが，許可しませんでした。』

長い忍耐と模範の歳月を経て，夫を教会に導いた姉妹もいる。キルメスステーキ部ラプラタ第一ワード部扶助協会の副会長をしているアンジェラ・L・デ・ルボミルスキー姉妹は，その例を次のように伝えている。

「ラプラタ第二ワード部のマリリン・オリエス・デ・ドーデル姉妹は，9歳のときからずっと教会員でした。教会にはいつも活発で，多くの教会の責任を果たしてきました。彼女は優秀な若者と結婚しましたが，彼は教会員ではありませんでした。しかし彼女は知恵を用いて，福音の教えや勧告をすべて家庭の中に取り入れたのです。『バランスをとるようにしなければなりませんね』ドーデル姉妹はその経験をこう語ります。彼女は愛と関心をもって家庭のため，夫のため，子供たちのために尽くしました。教会の集会が終わってからも友達とのおしゃべりには入らないでまっすぐ家に飛んで帰り，妻として母親としての義務を果たしました。

ドーデル姉妹の夫は2年前に教会員になりました。現在はラプラタ第二ワード部の監督をしています。』

次のポーリット・カーン姉妹の言葉は，女性がイエス・キリストの福音から学ぶことのできる最も大切な事柄を要約したものと言えよう。「私は本当に素晴らしい母親に恵まれました。当時，母は教会員ではありませんでしたが，気高い原則を少しずつ私に教えてくれました。お陰で結婚までの私の生活は素晴らしいものとなりました。しかし，福音を知ったことによって私は人生の意義をはっきりと知りました。

また自分が神の娘であり，栄えある行く末に招かれているのだということがわかって，一日一日の生活の大切さがよくわかるようになりました。私は自分が文字通り神の娘であることを知っているので，人生のどんな厳しい問題にも落ち着いて立ち向かうことができます。また，自分の行ないによって来世の場所が決まることを知っているので，さらによい妻，よい母親になろうという気持になります。」

# 「自分は価値があるんだって思えるの」

イルマ・ド・マッケナ

夜のとばりがすっかりおりる頃でした。夕焼けがラス・ロザスの小さな町をこの世ならぬ装いに包んでいました。緑の丘に，絵から抜け出たような小さな家々が，青々とした庭と花をつけた果樹に囲まれて点在していました。その美しさに私は息をのみました。

同僚のガブリエラ・レイエス姉妹と一緒に家庭訪問に来たのです。今しがた訪問してきたベラ・バラス姉妹のことが，まだ頭から離れません。バラス姉妹の家庭はとても敬虔な雰囲気があり，神の愛に満たされていました。私たちの心にはまだその安らかさが残っていました。

間もなく同僚が話を始めました。とても静かに，胸がいっぱいな様子で。「私は教会員になる前にラス・ロザスに住んでいたの。バラス姉妹の近所だったわ。私の地所に大きな井戸があって，近所の人たちはみんなそこから水を汲んでいたの。

その井戸のわきに野菜畑や花畑を作って，それが私の自慢だったわ。畑を見てまわって，大切に大切に育てていたのよ。近所の子供たちが時々井戸水のまわりで駆けまわって遊ぶので畑に入って荒らしはしないかといつもはらはらしていたわ。もっと気をつけてちょうだいって，子供たちに注意したこともよくあった。

ある日，町に買物に出かけて帰ってみると，畑が踏み荒らされているの。手塩にかけた野菜やお花が踏まれてさんざんだった。私，かんかんになって怒ったわ。

後で何人か子供たちが水を汲みにやってきたとき，ひどく叱ったの。かんかんになって怒って，これからは子供たちにも近所の人にも井戸を使わせないって言ってしまった。もう絶対にこの井戸から水を汲ませませんって宣言してしまったの。

子供たちはその晩，からっぽのバケツを下げて帰って行ったわ。ところがそれから少しして，近所の人から電話がかかってきて，家へ来てどういうわけか教えてほしいと言われたの。私は彼女の家に向かいながら，思いつく限りの理由を考えたの。

そのベラ・バラスさんの家に着くと，彼女はこう言ったのよ。『ガブリエラさん，お宅の井戸から何度も水を汲ませていただいたお礼が言いたくてお呼びしたんです。本当にありがとうございました』って。

彼女は恨みや非難がましいことは一切言わず，親切にやさしい口調で話をしたの。お礼の気持だとおっしゃって，生まれたばかりの子豚をプレゼントして下さった。

私，とっても驚いたわ。何という人かしらって。そうすると，急に気持がほぐれてきたの。道々考えてきた言いわけは全然必要なかった。彼女は私にプレゼントをしてくれたの。井戸を使わないで下さいって断わったというのに。私，息子さんがしたかどうか確かじゃないのに，畑を荒らしたって怒ったのよ。それなのに，私に感謝をして，贈り

物までして下さったの。

私は以前，彼女が信仰深い人だと聞いていたわ。だから彼女には，そんなことができたんでしょうね。

翌日，私が水を汲みに井戸に行くと，井戸が涸れていたの。私は泣いて後悔した。でも，水は涸れたっきり，私は遠くまで水を捜しに行って，今度は自分がお願いしなければいけなかった。水がいる時に，いつもそうしてお願いしたわ。私，とても大切なことを教えられたわ。でももう，庭先の井戸から水が汲めるようなことはないのだと思うと，悲しかった。

それから半月して，井戸に水が出るようになったの。涸れたときと同じでどうしてなのかわからないんだけど。私その時心に誓ったの。これからはだれにでもきっと水を汲ませてあげようって。

バラスさんの家に行って，好きなだけ水を使って下さいって言ったわ。そのときに少しだけどお話をして，この2週間ずっと考えていたことを聞いてみたの。『あなたの宗教は何ですか』って。

『私たちはモルモンです。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員です』っていう返事だった。

私はその宗教のことを全く知らなかったの。でも，彼女のような行ないをさせる宗教なのだから，きっと素晴らしいに違いないってわかったの。いろいろ彼女に質問して，とうとう宣教師が私の家に来るようになったわ。

私は間もなくバプテスマを受けて，すぐ後で主人も受けたの。子供たちもみんな福音を受け入れて。その時から私の生活が変わったわ。とっても進歩したの。一番苦手なのは怒りを抑えることで，それは今でもむずかしいけど，自制ということについてとてもたくさんのことを勉強したのよ。子供をよく教えられるようになったし，子供と心の交流が図れるようになったし。ついこの前，子供日曜学校の教師に召されたの。ほかの人を助けられるのだが，自分は神様に選ばれていて，価値があるんだって感じるわ。私も役に立てるのね。

だけど，一番うれしいことは何といっても家庭訪問教師でいられること。特に，私に人生で一番大切なことを教えて下さったあの姉妹を訪問できることよ。」

私たちは，あのラス・ロザスのほこりっぽい道を下って行きました。心には愛が満ちていました。福音に対する愛，隣人への愛，そしてお互いに対する愛。たった今，貴重な時間を共にしてきたばかりの，ふたりの訪問教師でした。

（イルマ・ド・マッケナ姉妹　チリ，ビニャデルマールステーキ部キプルワード部会員）

「母性に対するこの反抗は何たることかしら」と思いました。とても素晴らしい才能を数々持っているひとりの友だちがやってきて，自分は母親として失格だわと，洗いざらい語っていったのです。ほかにもふたりの友だちが入れ替わり立ち替わりやってきて，全く同じようなことを言っていきました。（私の夫は小児精神科医なので，彼女たちはきっと自分の「間違い」を私に見つけられる前にさっさと告白してしまおうと思ったのでしょう。）あなたは模範的な母親だと思うわと私が心に思うままを言うと，彼女たちは一様に驚くのでした。

アンは顔を少し赤らめて言いました。「母の日の説教は大の苦手。穴があったら入りたいわ。憂うつになって，罪の意識を感じるの。胸を張って誇りに思わなくちゃいけないんでしょうけど，私，話に出るような理想的な母親じゃないんですもの。」

ルースは私が知っている女性の中でも特に素敵な人です。ところが，先週の扶助協会で母親教育のクラスに分かれる時，彼女は席を立とうとしませんでした。どうしたのかしらと見ると，彼女はつぶやくようにこう言いました。「きょうは社会のレッスンに出るわ。母親教育のレッスンは聞

# 母親失格と思うときに

クローディア・T・ゴーテス

いていられないもの。だめなの。失格なのよ」

リベッカは友人たちから尊敬されている立派な女性ですが，その彼女も「良い母親にはほど遠い」と思っています。素晴らしい子供たちが7人もいるのに，こう考えているのです。

この能力があって霊的な姉妹たちが，一番大切な務めに自分は失格だと，どうして考えるのでしょうか。私はそのことをよくよく考え，自分のことも考え合わせて，3つの理由を発見しました。

1．私たちは皆，自分を他人と比較しがちです。それもその相手が身なりをきちんと整えて，気持を正している一番良い状態の時ですし，他方，自分は一番悪い状態の時です。ですから，比較すれば自分に分が悪いことは初めから決まっています。

2．計画出産や，家にばかり縛られないことが美徳だと主張する女性解放の声を耳にしています。知らず知らずの内に影響されて，自分でも説明できないような否定的な気持になっているのではないでしょうか。

3．何と言っても大きな理由は，だれもが未経験の，準備の整っていない母親業に取り組んでいるということです。独身の時はこの大事業につきものの苦労よりも心ひかれる箇所が見えるもので，最初の困難にぶつかるとすぐに挫折感を味わうのです。私自身，母親としての能力を発揮するには幾つかの過程があり，子供や少女のような段階を経なければ一人前の母親になれないということを知りませんでした。私が心から尊敬していた母親たちも，やはり挫折と落胆を経験していたということを知っていたらよかったと思います。ルースやアンやリベッカだけでなく，恐らくどの母親も，一度や二度は予期しなかった大変な仕事を抱え込んだものだと考えたに違いありません。

でも私は証できます。母親であることの本当の喜びが，あきらめることなくこの仕事に取り組む人々を待ち受けているということを。主は，必ずみこころをなし遂げる道を備えてから戒めを与えられます（Ⅰニーファイ3：7参照）。私自身の経験と心の移り変わりがその証拠です。

**乳児期**　母親になったばかりのこの段階は理想に燃えていますが，それだけに少しのことでつまずいてしまう危険性があります。私たち夫婦は最初の子供が生まれた時に，さあ頑張るぞと気負い立ちました。完璧な母親になって完璧な子供を育てようと心に決め，育児書を何冊も読みました。人がしている間違いは，よくよくの時でなければ自分はしないようにしようと考えました。母親業は上手にやろうと思えばやってのけられるものだと思っていたのです。

**幼児期**　育児は本を読んだだけではとてもやってゆけないということを知って，ショックでした。子供はこういうふうに振る舞うものだと本で読んでいても，子供自身がその本を読んでいるわけではないのです。頭の中は疑問でいっぱいでした。私は悩んだあげく，いろんなことを知りたいと思い，飽くことなく知識を求めました。経験ある母親たちといる時は，経験談や忠告を一生懸命聞いたものです。

**青年期**　母親となるための成長段階をどれかひとつ抜かしてもよいとすれば，それはこの時期でしょう。ある人にとってはこの時期は穏やかなますぐに終わりますが，でもそんな幸運な人はまれです。まだひとりかふたりの小さい子供しかいない母親には，この時期が実際に訪れることがなかなか意識できないかもしれません。正直言ってどの母親も，母性に対する反抗心や，特に貴い霊たちに対して腹立たしい気持を持ったりすることが実際にあると考えることを，これは冒瀆だと思う人もいるでしょう。そのような気持をあるまじきことと考える人に対して，「自分はそんな気持にならないわ」とは決して言わないで下さい。少なくとも，後であなたがそんな気持になった時にその時の言葉を思い出させるような証人のいる前では。この段階に入る時期は人それぞれに違います。

私がこの段階に入ったのは，結婚5年後で，4歳を頭に子供が4人になった頃でした。4人目の子供の誕生と同時に，子供同士の自然なライバル意識がとても目立つようになりました。どの子も赤ちゃんより自分に気を引こうと懸命で，たとえ叱られてでも私の注意を引こうといろいろ知恵をしぼります。私はいつも疲れていて，時々かんしゃくを起こしました。赤ちゃんの世話に追われるあまり，夕食の時刻になってもテーブルに食事が並ばないことがあり，そんな時にはむらむらと腹が立ちました。

一番下の子にミルクを飲ませる時（椅子に腰掛けるのはこの時だけでした），育児書のことを考えると腹が立ちました。内容や著者は信頼が置けるのかしらと，疑いました。育児をまるで科学とでも考えているようで，これができたら，あるいはこの方法を使ったら必ずこれこれの結果が得られますよというのです。私は著者を責めましたが，意識の下では力不足の自分を責めていました。

私は心ひそかに自由を望みました。母親業が首にならないことは重々承知していましたので，子供たちが大きくなって，自分の好きなこと，たとえば社会事業などに参加して心の平安を得られればと，その時を待ちこがれました。苦しさのあまりに，今いる子供だけでも主のみこころ通りに育てられないのだから，これ以上の子供を持つのはどうかしらとも思いました。

**大人の時期**　この完成期は，完全も段階を踏んだ一生の仕事だと悟って苦にせずに問題を受け入れる，そしてその問題と格闘して挫折感や無力感を感じるのではなく，じっくりと穏やかに解決をはかるといった時期です。私が未熟な反抗期から大人になっていったのには，幾つか大きな契機がありました。

1．時間　結婚した当初，「本の知識」よりも「実生活から得る知識」の方がいろいろな問題を解決するのに役立つと夫に言われて，ほっとしたものでした。ただ，頭ではそれがよくわかるのですが，感情的に納得してそのように行動するまで15年ほどかかりました。そんな経験をさせてくれるのは実生活の積み重ねしかありません。

時間のもうひとつの利点は，自分が教えた成果が見えてきたことです。私は何年間も，子供たちに思いやりを教えようと努めてきました。それが，去年の母の日にその成果を目にすることができて，とても感謝しました。驚いたことに，14歳の娘が自分で服を縫ったのです。さらに翌朝，彼女は徹夜をしてもう1枚の服を縫って私にプレゼントしてくれました。彼女の犠牲と思いやりほど，私の胸を強く打ったものはありません。

2．断食，祈り，聖典の勉強　私がこれらの事柄に熱心に取り組んだ時，主が私に必要な聖句を教えて下さったように思います。ひとつの大切な聖句はニーファイ第二書9章28－29節です。

「おお悪魔の狡猾な謀りごとよ。おお人間の虚栄と意志の弱さと愚さよ。人間は学問があると自分は賢いと思って神の訓戒に耳をかさず，自分独りで解ると思って神の訓戒をうち捨てるから，その知恵は愚であって何の益にもならず，かれらはついに亡びるのである。しかし，人間がもしも神の訓戒に従うならば，学問のあるのも善いことである。」私の一番大きな過ちは，人間の知恵にあまり頼りすぎて，主からあまり助言を得ようとしなかったことでした。

次に教えられたのは，ニーファイ第二書2章11節でした。リーハイがヤコブに教えたことで，すべてのことには反対のものがなければならないというこの聖句は，私の心に焼きつきました。私はその聖句を何回も読みました。しかし母親としていろいろな困難に出会った時に，どうしてこの聖句を思い出さなかったのでしょう。すべてのことに反対のものがあるとしたら，母親業もその例外ではないのではないでしょうか。「サウンド・オブ・ミュージック」のマリアのように，なぜ何もかもうまく行くと期待したのでしょう。

心に強く残った3番目の聖句は，「肉欲に従う人は神の敵であって」（モーサヤ3：19）というベンジャミン王の教えでした。私はどうして子供たちに，そうはならないと期待していたのでしょう。子供たちが良くない傾向を見せるのも当然といえば当然でした。それは彼らが人並みでなかったのではなくて，私が良くない母親だったからでした。私の仕事，私の栄光は，子供たちが肉欲に従う人から霊の人になるのを助けることにあるはずです。

私を一人前の母親になるように助けてくれた4番目の聖句は，ジョセフ・スミスがリバティーの牢獄で絶望にひんした時のものです。主はジョセフ・スミスにこう答えられました。「汝心安かれ……

これ皆汝に善からんため，汝に経験を与えんためのものなり……

『人の子』は一切これらのものの下に身を落したり。汝は彼より大いなるか。」（教義と聖約121：7，122：7－8）

何という衝撃でしょうか。みじめな自分を実は正当化していたのではないだろうか。ジョセフ・スミスよりも大きな試練にあったとでも言うのだろうか。いや，そのようなことはない。私はそう考えて心を取り直しました。

自分の態度が変わるにつれて，母親としての生活も変化しました。これまであげた聖句が鏡のように，こうならなければいけないという本当の姿を映し出しました。私は子供たちを変えようと頑張ってきたのですが，変わらなければならないのは自分でした。立派な母親になるために立派な人間にならなければならないことをようやく知って，万事に落着きを得たのです。

もう自分の失敗ばかりに気を取られず，成功を考えるようになりました。私はあるちょっとした経験からこのことを心に強く感じました。日曜日の服を取りに4歳の子を自分の部屋に行かせた時のことです。15分しても戻って来ないので，なぜだろうかと部屋まで見に行きました。すると服のかごにボールを投げ入れているではありませんか。

私はしかることなく，こう言いました。「まあ，よく入るのねえ，びっくりしたわ。」　彼はばつが悪そうに笑って，「だからやってるの。びっくりさせようと思って」と言いました。私にすれば服を見つけてくれた方がよかったのですが，彼が一生懸命私を喜ばせようとしてくれたことに胸が熱くなりました。また彼が私に対して悪びれることなく自分の気持を示してくれたこともうれしいことでした。私は自分の短気を抑えることができて，子供と良い気持を通わせることのできる祝福を知りました。

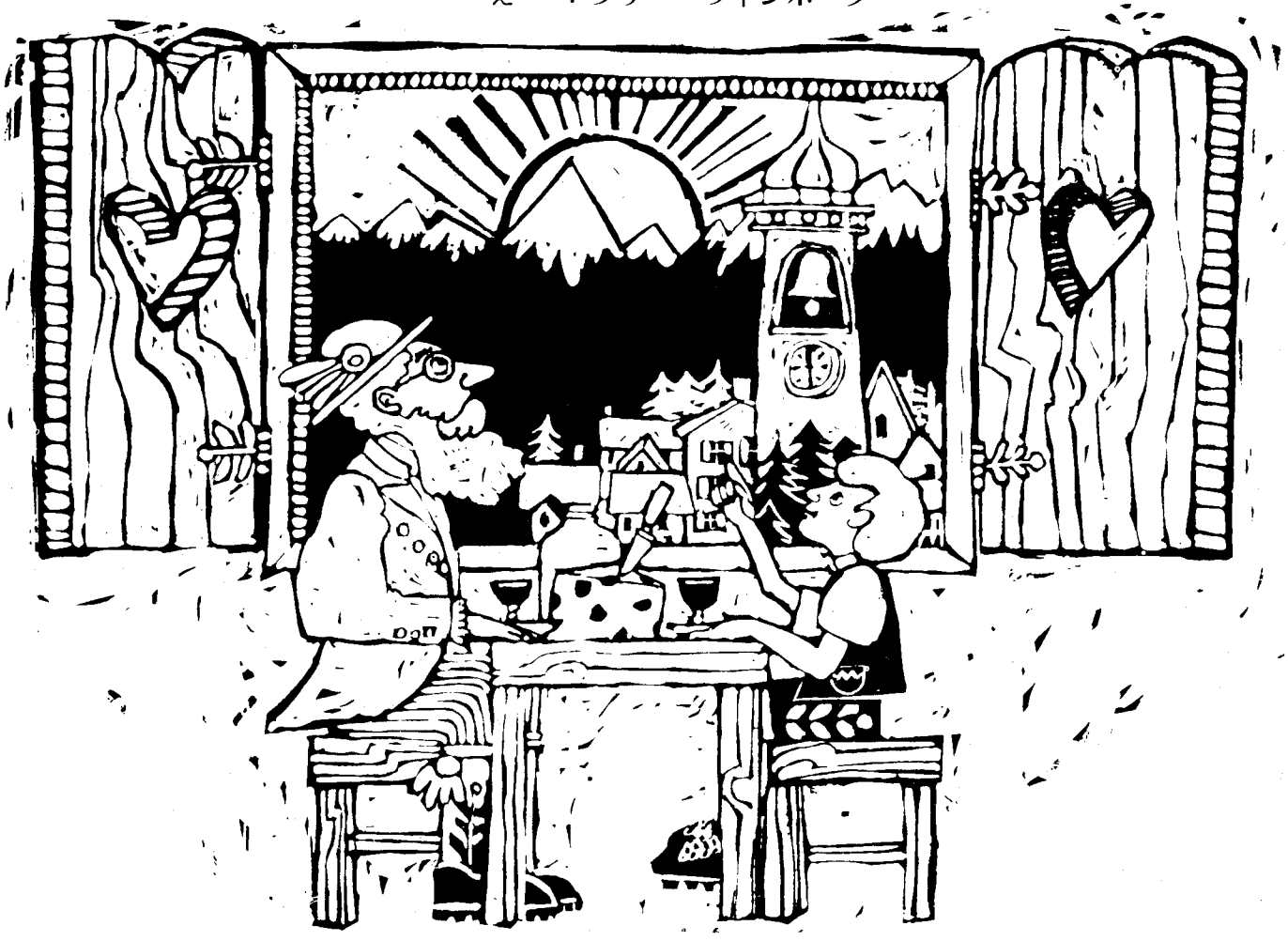
私はこのような数々の経験から，「なかなか進歩の見られない状態」も主の計画のひとつであり，自分も主の助けをいただいて主が望んでおられるような母親になれるという信仰を持ちました。道は長くて大変でしょう。子供たちのしつけや教育で時々間違うこともあるでしょう。でも目標に到達できることを，私は知っています。子供たちにしつけをしながら，自分も進歩するということがわかりました。苦労は私を強く鍛え，摩擦は私の性格を丸くみがいてくれます。

私には，主が私たちを愛して下さるという証があります。私たちは本当に神と協力して，小さな霊たちをこの世に迎えます。私たちは大きな報いを受けることでしょう。最後の結果だけでなく，それまでの間に霊的な進歩をも経験できて。主はこの世界を未完成のまま，教訓と証を増し加えることのできる状態のまま，また能力をさらに引き出せる状態のままに残して行かれました。私たちが主のみ業に携わり，主の栄光にあずかれるようにするためです。結果が報いとなるばかりでなく，その手段も私たちをみがき，清め，やがて私たちが天父にお会いするときに，きっと天父はよくやったと私たちをほめて下さることでしょう。

（クローディア・テッドウェル・ゴーテス　ソルトレーク・エミグレーションステーキ部フェデラルハイツワード部所属の主婦，教会教材開発委員会で著述家として働いている。）

# 村の鐘

おはなし：ヘイゼル・M・トムソン
え　：ラリー・ウィンボーグ



新しい村長さんがしゅうにんして，アルプスの人々は，また美しい鐘の音が聞かれると　楽しみにしていました。ところが，鐘はぜんぜん鳴らないのです。

「このわたしに鐘を鳴らせって，とんでもない。ちょうど　わたしの夕食の時間だ。とてもできないね。議員ならできるだろう。」

ところが，議員もみんなできないという返事でした。

長い間，アルプスの村に鐘の音がひびかなかったのは，こんなわけだったのです。ハンスは，話だけはおじいさんから聞いて知っていましたが，音はまだ一度も聞いたことがありませんでした。

おじいさんの話はこうでした。「昔は毎日，夕方になると鐘が鳴った。ちょうど，

太陽があの山の向こうに沈むころじゃった。何かことが起きたときも，鐘は鳴った。あれは，大きななだれが起きたときだった。鐘の音を聞いた男たちはみんな，なだれの下じきになった人を助けにかけつけた。」

「みんな助かったの？」

「助かった。あれは，きせきじゃった。うまいぐあいに　雪の中にほら穴があってな。」

おじいさんは，ひとりうなずくと　塔の方を見やりました。

「昔はいつでも鳴ったものだ。」

「おじいちゃん。ぼく，すごく鐘の音が聞きたいんだ」

「そうか。多分　聞けるじゃろう。もう一度　村長さんにお願いしてみよう。」

ハンスとおじいさんは，村長さんをたずねました。でも，村長さんは，しょうちしてくれませんでした。

「できないね。鐘を鳴らす係はいないから」

村長さんの冷たい返事に，ハンスはやっきになって言いました。「ぼくが鳴らします。ぼくの家はいちばん塔に近いんです。ぼくならできます。」

「こどもにはむりだ」

「日の入りなら　こどもだってわかりますよ」

「でも，何かことが起こったときは　どうなるかな」　議員たちは，くちぐちに言いました。

「ぼくなら　だいじょうぶです」　ハンスは，自信たっぷりに言いました。

すると　村長さんは，大きなあくびをしながら言いました。「問題はそこだ。村では　もうずっと長い間　大きな事件は何も起きていない。なだれも，洪水もなかった。火事だって一度もない。鐘はなくてもいいんだ。」

議員たちも同じ考えでした。ハンスは，村長さんの腕にすがりつくと，言いました。「でも，もし何かあったときは　鳴らしてもいいでしょう？」

村長さんは，ハンスの熱心さに負けて，ゆるしてくれました。

村は，前と少しも変わりませんでした。でも　ハンスは，村長さんとの約束をわすれませんでした。春になりました。ハンスは，毎日日がのぼると　牛を追って山に登り，夕方には　ふもとの家に帰ってきました。

ある日，ハンスは牛をさくの中に追いこむと，さくの一番上にこしかけました。そばで，おじいさんがミルクをしぼっています。ジャーッ。ジャーッ。白いミルクがバケツの中で　こんもりあわだっています。ハンスは，ふと　西の空を見やりました。

太陽が空をあかね色にそめて，雲の切れ間から金色の光がこぼれています。夕日に，ふもとの湖もキラキラかがやいています。

「なんてきれいな夕やけだろう」

ハンスは，あまりきれいなので　ただうっとりしていました。

「ほう。みごとな夕やけじゃ。」　おじいさんも　乳しぼりの手を休めて，西の空を見やりました。

「そうだ。きっと　みんなも見たいにちがいない！」

ハンスは，大声をあげて　さくから飛びおりると，塔に向かって走り出しました。ハンスは，村長さんとの約束を思いだしながら　階段をかけ登りました。

ハンスは両手でしっかりロープをつかむと，力いっぱい鐘を鳴らしはじめました。ガラン。ガラン。村人たちは，鐘の音を聞いて　ぞくぞく家から出てきました。村では，ちょうど夕食の時間でした。

「おい，あれを見ろ」　男の人が，まっ赤に燃える西の空を指さしながら　さけびました。「山火事にちがいない！」

「きっと　そうだ！」　村長さんは，ナプキンをあごの下にはさんだまま　さけびました。「すごい火だ！　ハンスに感謝しなければならんな。あの子のおかげで発見できたんだから。」

大ぜいの人が　塔の方にかけつけてきました。そのうち，あかね色の空は　しだいに色あせて，村はとっぷり日がくれました。村人たちはハンスのいたずらに気づいて，とても腹をたてました。

「ハンスはどこだ！」「ハンスをここに連れてきなさい！」　村長さんはカンカンです。

「おーい。ハンスがいたぞ！」

「おかげで村中大さわぎだ。」　村人たちもカンカンです。村長さんは，ハンスを見るなりどなりました。

「いたずらをするとはけしからん。ただの夕やけだったじゃないか。」

ハンスはそっと，「でも，ほんとうにきれいだったでしょう。それとも村長さんは，だれかの家がやけてしまった方がよかったの？」と　聞きました。

村長さんは，じっとハンスを見つめました。そのとき，村長さんの子供が　かけこんできました。

「パパ。きれいな夕やけだったね」

男の子はハンスの方を向くと，「いつもあんなにきれいなの」と　聞きました。

「きれいだよ。でも，毎晩ちがうんだ」

「じゃあ，ぼくも毎日見ようっと」

「そうね。ママも見ることにするわ」

すると，村人たちも「わたしも見ることにしよう」と　口々に言いました。そして，にこにこしながら　家に帰りました。村長さんと　おじいさんと　ハンスだけが，塔のそばに立っていました。

「さあ，あすはいそがしいぞ。夕日を見るベンチを作らなきゃならん。ハンス，お前は毎晩，鐘を鳴らすのだぞ」

村長さんは，そう言って家に帰りました。

「鐘の音が聞けて，おじいちゃんはごきげんじゃ」

「ぼくもだよ。おじいちゃん」

ハンスとおじいさんは，夕やみの中を家に向かいました。

ヘレンが，シャーロットと文通を始めたのは5年生のときです。シャーロットは，スコットランドのダンディーに住んでいました。ヘレンは文通を通して，プライマリーやＭＩＡのことをシャーロットに知らせました。神殿やユタ州の興味ある場所の写真も送りました。

ヘレンのワード部から，ブルース・ドレイパー長老がスコットランドに伝道に召されたのは，去年のことでした。ドレイパー長老がシャーロットに福音を教えることができますように。そう願ったヘレンは，シャーロットのことをドレイパー長老に知らせました。

1週間ほどして，シャーロットからふたりのアメリカ人の訪問を受けたという手紙が届きました。「あいにくその日，私は音楽会に出かけていて留守でした。おばあさんの話では，長老たちは2時間も私の帰りを待ったすえ，次の土曜日にもう一度来ますと言って帰ったそうです。私が家に帰ったのは，長老たちが帰ったわずか15分ほどあとでした。1日も早く長老たちに会いたいです。」　シャーロットは，次の土曜日が待ち切れなくて，ヘレンに手紙を書いたのです。

その次にシャーロットからきた手紙は，こんな書き出しでした。「きのうバプテスマを受けたのはだれでしょう。あす，確認の儀式を受けるのはだれでしょう。世界で一番幸せな女の子はだれだと思う？そう，もちろん私よ」　そして，シャーロットとお母さんがわずか2週間で改宗したことが書いてありました。

その後も，シャーロットは教会の活動や新しい友達，支部のロードショーに出たことなどについて，次々と手紙を書いてきました。

8月21日付の手紙で，次のように書いています。

「このことをあなたにお知らせしないわけにはゆかないわ。モルモンであるということで，本当にすばらしい経験をしたのです。

スコットランドには末日聖徒の学校がないので，私はバプテスマを受けてからもハリス・アカデミーに通っています。長老派の学校なので，生徒はみんなプロテスタントです。学校では毎週，宗教の時間があります。勉強するのはもちろん長老派の教えです。だから，バプテスマを受けてからも，私たちがすることは聖書を読むことだったので，前と少しも変わりませんでした。でも今年は違います。先生が，宗教の時間は正規の授業ではないので討論の時間にするとおっしゃったのです。先生は私たちに質問したいことをひとつだけ書くようにおっしゃいました。

でも私は6つ質問しました。答えは全部知っていたけれど，先生に末日聖徒の教えを教えてあげたかったのです。

私が質問したのは次の6つです。(1)黙示録14：6の解釈，(2)Ⅰコリント15：29（死者のためのバプテスマ）の意味，(3)イエス・キリストの本当の教会はどこか，(4)神会の本質（3人が同一の御方であるのか，3人の別個の御方であるか），(5)バプテスマの正しい方法，(6)バプテスマを受ける理由。

私のほかに質問を書いた人はだれもいませんでした。とにかく，それから2週後のきのう，私たちは天父がどんな御方であるかについて話し合うことになりました。し

ばらくの間，先生が異端者や無神論者についてくだらない話をしたあと，話し合いに入りました。私はさっそく，父なる神様とイエス・キリストと聖霊が一体であると信じている人がいると言いました。末日聖徒はそのような教えを信じていないので，そう言ったのです。すると先生は，その証拠をあげるようにおっしゃいました。私が聖句ですらすらと答えたときの驚きったらありません。先生はただもう，びっくりしていました。なぜって，長老たちからいただいた本を毎晩，欠かさず読んでいたからです。私は，天父とイエス・キリストと聖霊は別々の御方であることを書いた聖句を読みました。すると，先生は『もちろんです。私たちは神様が霊の御方であることを知っています』と言って，話題を変えました。それで私は，さらに天父は体も髪の毛も目も持っておられるという聖句を読みました。本当に不思議でした。いつの間にか，私はみんなに向かって，熱心にジョセフ・スミスの証を話していました。私は聖霊の導きがあって，主のみたまが私と共にいて下さったことを知っています。最後には，先生に代わって質問に答えていました。今ではクラスの21人の人がジョセフ・スミスのことを知っています。私の証を用いています。モルモン経も知っています。

主の恵みがいつもありますように。

シャーロット」

# ペンパルの改宗

ヘレン・パッテン

つばめが，運河の上をたのしそうに　とびかっています。雨のきせつもおわって，とてもよい天気です。でも　スマリは，ちっともうれしくありません。

「どうしたんだい。きょうは，はじめていちばに行く日だっていうのに」　お兄さんのポテが，舟をこぎながら言いました。

「さあ，元気を出して」

「だめよ。こわくて」

「こわいって？」ポテは　わらいました。

「お兄ちゃんのいじわる」

「ごめん　ごめん。ぼくが悪かったよ。でも，なぜこわいんだい？」

「知らない人に話しかけるの　いやなの。だから，やさいは売れない」

「それだけ？　じゃ，ぼくが売り方をおしえてあげるよ」

ポテは，スマリに大切なことを全部おしえました。でも　スマリは，ますますおびえるばかりでした。

「お兄ちゃん，おねがい。きょうは，やさい売らなくてもいいでしょう。わたしにできっこないこと　わかってるのに。ほかにすることがあるもの」

スマリは，いろいろな手をつかって　おねがいしました。でも　お兄さんのきもちをかえることはできませんでした。

「さあ，着いたよ」　ポテは，スマリにオールをわたしながら　いいました。

「じゃ，ぼくは行くよ。1日だけだからね。いったとおりにするんだよ。かぞくみんなが　あてにしているんだからね」

「お兄ちゃん，行かないで……」

「しっかりね」　ポテは舟から　ひょいととびおりると，たちまち人ごみの中に消えました。

# 運河（うんが）のいちば

おはなし：シェリー・ジョンソン
え　：ディック・ブラウン

スマリは泣きたくなりました。見ると，水上住宅の下で　こどもたちがおよいでいます。スマリは，水泳が大すきです。そうだ。みんなといっしょに　およごう。だれも買ってくれなかったと　言えばいいわ。

そのとき　スマリは，お兄さんが言ったことを　思いだしました。スマリは，また，暗い気持になりました。スマリの家族は，やさいを売って　生活しているのです。

スマリは，おそるおそる舟を土手につけました。

「とうもろこし，…さとうきび…」　スマリの声は小さくて　だれにも聞こえません。

「やさいに，とうもろこし！　とれたばかりのやさいですよ」　だれも立ちどまる人はいません。スマリのほっぺは　まっ赤です。スマリは，思いきって，よびかけました。

「とれたばかりのやさい，とれたばかりのやさいは　いかがですか！」

「ほんとにとれたばかりなの？」　女の人の声に，スマリは　どきっとしました。スマリは，こっくりとうなずきました。

「じゃ，それをいただくわ」

スマリは，ほっとしました。すると，またお客さんがやってきました。

「これ，ほんとに新しいのね？」

「お父さんは正直だから，いいものしか売りません」　スマリは　いっしょうけんめい　答えました。それから　スマリが休むまもなく，お客さんはぞくぞくやってきました。やさいは全部売れました。スマリは，ポテをさがして　舟をこぎました。

「スマリ，ここだよ」　ポテが手をふって　よんでいます。

「じゃ　これから残りのやさいを売りながら帰ろう」　ポテは，舟に乗りながら言いました。

「でも　お兄ちゃん，やさいはないのよ」

「ないって？」　ポテは，あわてて舟の中を見まわすと　こわい顔をしました。「まさか川にすてたんじゃないだろうね」

スマリは，だまってポケットからお金を取りだしました。とたんに　ポテはにこにこして言いました。

「スマリ，すごいじゃないか。ぼくだって　全部売ったことないのに」

「でも　こわかった。お客さん，うちのやさいを気に入ってくれたみたい」

「スマリをしんらいしてくれたんだよ」

「こわいこわいって思っていたから　とってもうれしいな」

「本当によくやったね。お父さんもお母さんも，きっと大よろこびだね」　ポテは，スマリをほめました。

スマリは，はじめて家族を助けるよろこびを知りました。スマリは，心の中に　あたたかいものを感じました。

「こんどは　もっと楽しくできるよ」

「こんど？」　スマリは，いっしゅん　その場に立ちつくしました。

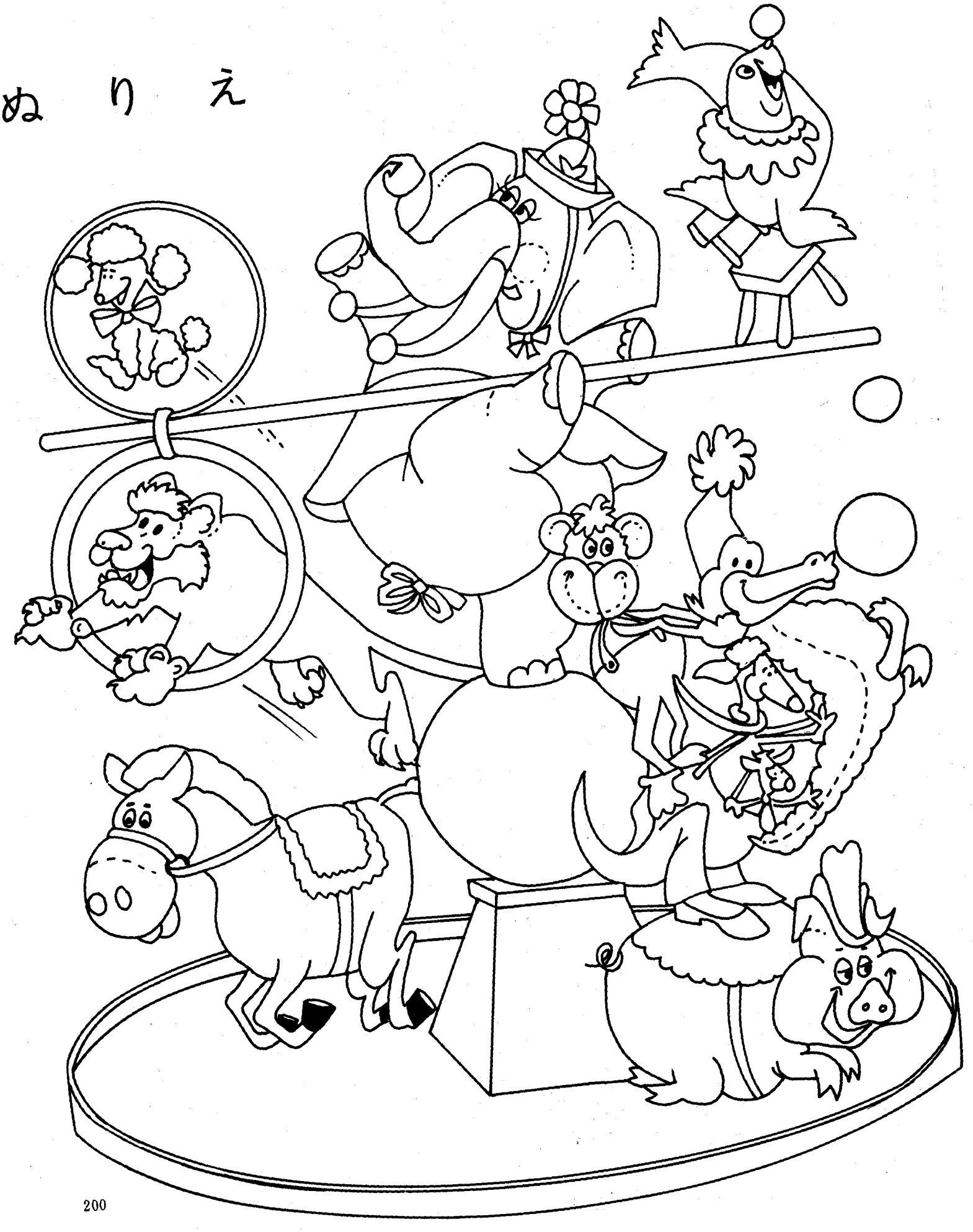
「しんぱいしなくてもいいよ」　ポテはにこにこしながら言いました。

スマリも，にっこりして　「どうすればこわくないの」と　ききました。

「そうだね。きょう感じた　あたたかい気持を思い出すんだね」

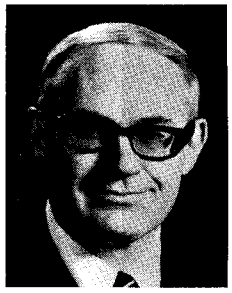
「あたたかい気持ね……」　スマリは，空を見上げて　にっこりしました。つばめが，楽しそうにとんでいました。

# ぬ り え



# 質　疑　応　答

本誌の回答は問題解決の一助として与えられたものであり，教会の教義を公式に宣言するものではない。



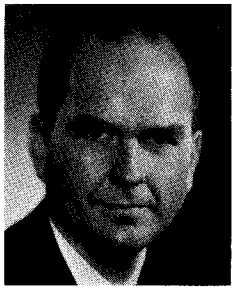
七十人第一定員会会員
ローレン・C・ダン

**教会員でない人も教会員と同じように聖餐を受けた方がよいのでしょうか。**

非教会員にとって，みたまと福音の教えになじむ最良の機会のひとつは，教会の集会に出席することです。私たち一人一人には非教会員と親睦をはかる責任があり，そのひとつが友人や知人を補助組織の集会や日曜学校や聖餐式に先立って非教会員に，聖餐は教会員が教会に入る時に交わしたバプテスマの誓約を新たにする儀式であることを説明しておかなければなりません。教会員でない人はまだバプテスマを受けていないので，聖餐を受ける必要はありません。教会の集会には教会員でない人がよく出席しますし，もちろん彼らは聖餐は取りません。ですから，聖餐を受けなくてもよいことを説明するとよいでしょう。

「また汝らに告ぐ，熱心に王国を求むる者あらば何人にまれ聖餐会より退くことなかれ。これは，教会に属せざる者に就きて言うなり。」（教義と聖約46：5）

---



日曜学校中央管理会会長
ラッセル・M・ネルソン

**日曜学校や神権会のクラスで，福音について教会の教義かどうかわからないようなことを聞くことが時々あります。そのような時，特にその教師の信じていることに同意できない時は，どういう態度を取ったらよいでしょうか。**

教会では正確な教義を教えることがいつの時代にも要求されています。教義と聖約88章77節に，このような主のみ言葉が記録されています。「われまた汝らに一つの誡命を与う。すなわち汝ら互いにこの王国の教義を教ゆべし。」またさらに，「互いに智恵ある言葉を教うべし。然り，汝ら最も善き書より智恵ある言葉を探し求めよ」(118節)と。しかし同時に，私たちは隣人を愛する気持を常に持っていなければならないことも承知しています。

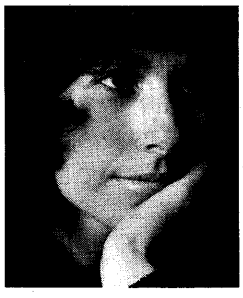
信仰を強くし，自分のクラスを先に挙げた聖句の精神で導くこと，従って推測や個人の見解を避けることが教師の責任です。これが守られない場合は，この質問にあるようなことをはっきりさせておくことが，生徒たちの務めでしょう。しかし，これをどのような方法で行なうかは微妙な問題ですから，注意深く，祈りの気持をもってよく考えて行なうべきです。

できれば，問題の教義を標準聖典に照らして自分で研究してみます。そして，章や節をあげて自分の意見の裏付けができるようにしましょう。次いでその証拠を持って，問題の教師と一対一で，主が言われたように「共に論ずる」（教義と聖約50：10）のです。

問題の点を，次の日曜学校のクラスで復習するように頼むとよいでしょう。教師がそれを拒んであくまで正しくない教えを説くようであれば，ワード部や支部の日曜学校会長会にその件を報告して下さい。

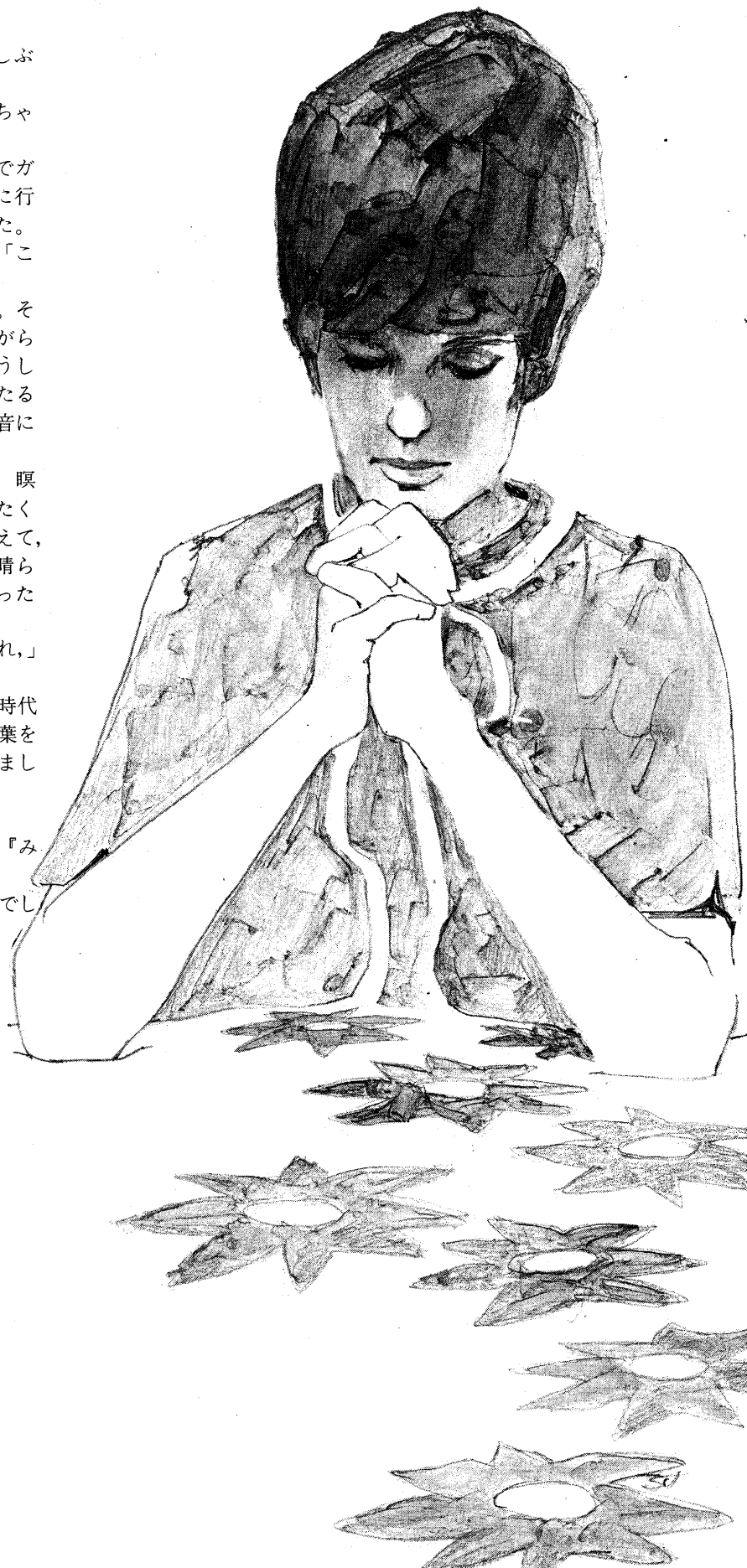
教師養成基礎コースを終えて現職レッスンに参加している日曜学校教師ならば，そのような問題を避ける方法を承知しています。公然と攻撃することや，特に痛烈な批判や感情を露骨に表わすことは，何としても避けなければなりません。神と隣人に対する愛をもって，考え，行動して下さい。

目覚まし時計のけたたましい音で目を覚ましました。
「もう起きる時間なの？　ああ，いやだなあ。」
ジージーといううるさい音がやっと止まって，私はしぶしぶ起き出しました。
「土曜日よ，休みの日じゃない。どうして起きなくちゃいけないの。」
とは思いながら，私は薄暗がりの中をねぼけまなこでガウンをひっかけ，スリッパをはいてゆっくりドアの方に行き，立ちどまってノートと鉛筆と聖典を取り上げました。「一体どういうことなんだろう？」私は考えました。「これが土曜日にすることかしら？」
私はソファーの傍らにひざまずいてお祈りしました。それからソファーに腰かけ，時々ノートにメモをとりながら聖典を読み始めました。そしてはたと考えました。どうしていつになくこんなことをしたのかしら，と。思い当たることがありました。「これが新しい自分なんだわ。福音に飢えるっていうことがわかりかけている自分よ。」
土曜日の朝食前に聖典を読み，ノートにメモをとり，瞑想することから得られるものは何でしょうか。そう，たくさんのこと，多分永遠の生命もです。神のみ言葉に飢えて，パンではなく真理によって満たされることは，何と素晴らしいことでしょう。私がどうしてこう感じるようになったか，そのわけをお話したいと思います。
「この大騒動の間に，私の心は深刻な反省を促がされ，」（ジョセフ・スミス2：8）
これは，福音が回復される前の宗教が混乱していた時代に，少年ジョセフ・スミスが語った言葉です。この言葉を初めて読んだ時，私は彼の若々しい深い思考力に驚きました。
ニーファイも若い時代にこの賜を持っていました。
「思いにふけりながら腰をかけていたが，私は主の『みたま』にとらえられて，」（Ⅰニーファイ11：1）
若きニーファイの知恵は何と素晴らしいものだったでし



# 思索することが必要です

スーザン・ヒル



ょう！　私たちもその知恵が得られるのでしょうか。それともこの知恵はごく少数の人に与えられる特別な賜なのでしょうか。スケジュールが一杯で無我夢中で過ごした高校生活。その中で私は，ニーファイのようにみたまにとらえられたり，ジョセフ・スミスのように主を知ることができたらどんなにすばらしいだろうと考えたものです。けれども，大勢の人と同じように，一歩踏みとどまって深く考える必要のあることをまだ知りませんでした。ニーファイやジョセフ・スミスは，一歩踏みとどまって深く考えました。しかし，私はそうはしませんでした。

深く考えるというのはどういうことでしょう。

私にはそれまで深く考えるという経験がなかったので，それがどういうものかわかりませんでした。ただ，自分は忙しすぎると思いました。あなたも，急いでいる時は深く考えることができないと思います。

私は聖典を読むことを習慣としていました。（時間の都合がつく時に）ほかの本と同じように，話の内容を知るためと，またかけらほどの知恵を得るためにさっと読み流していました。私は聖典を消化するにはゆっくり読み，忘れていた思考術に活を入れてそこから学ばなければならないことを理解していませんでした。日々多くの事柄に追われて静かに瞑想する時間はないと，誤解していたのです。

多忙な大学時代の最後の年に，私は日曜学校の教師に召されました。それは，主の王国の教義を熟考するようにという，チャレンジのかたちで与えられた主の賜でした。私は真理に基づいたレッスンができるように，聖典を繰り返し繰り返し読んで，福音を一つ一つ苦労してゆっくりとかみくだかなければなりませんでした。時間がかなりかかるので時々息抜きをしましたが，しかしこの賜は貴重でした。それは長い間乾いていた私の魂の小さな芽に注がれた水のようなものでした。こうして私は，神の聖者が神と福音について知るようになった過程を，わずかながら知るようになりました。それは選ばれたごく少数の人だけの賜ではなく，従順の律法と長時間の研究に基づいた祝福なのです。

私は朝早く聖典を読むことから，深く考え，探究するために必要な基本を幾つか知りました。

**1．聖典を読む前に必ず祈る**　心を落ちつけ，世の雑事を忘れて下さい。また，読みながら祈って下さい。福音の概念に強い印象を受けた時や，疑問が生じた時には，ためらわずに天父に尋ねて下さい。

**2．手の届く所に紙と鉛筆を用意しておく**　霊の鼓舞される機会であるので，目標や良い考えや独創的な考えが頭に浮かんだら，忘れないうちに書き留めましょう。

**3．ゆっくり読む**　この勉強は競争ではありません。寝る前に決められた章を必ず読まなければならないということはありません。ひとつの章や節に何日かかってもよいのです。聖句を暗記して下さい。今の生活に大きな力を及ぼす隠された意味が，やがてわかってくると思います。

**4．聖典を読みながら自問自答する**　私は聖餐の祈りを読みながら（「永遠の父なる神よ，われら御子イエス・キリストの御名によりて願いたてまつる。ここにこのパンをいただくすべての人々が，御子のからだの記念にこれをいただくよう，また喜びて御子の御名を受け，御子を常に忘れず，またその下したまえる誡命を守ることを永遠の父なる神の御前に証明し，かくして御子の『みたま』常に一同と共にましますよう，このパンを祝いきよめたまえ。」〔モロナイ4：3〕），疑問の箇所を考え，答えを求めました。

(a)　自分は御子のみ名を受けたいという気持を天父に示しているだろうか。どうすればそれができるだろうか。

(b)　常に御子を忘れないということを，どのようにして証明できるだろうか。

(c)　自分はいつも御子を忘れずにいるだろうか。どうすればそれができるだろうか。

(d)　「きよめ」るというのはどういう意味か。

このようなことをじっくり考えているうちに，それまで知らなかったもっと深みのある自分を発見しました。私は疑問がわくと主に祈ります。疑問を持つと，私は心の扉を開いて，聖霊が入るようにしました。

**5．　日に何度でも，深い意味を知りたいと思っていることについて深く考えてみる**　たとえば，「あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない」（レビ19：18）という真理を考えてみて下さい。この聖句を繰り返し，自分の行動を反省し，これを小さなカードに書いて持ち歩くのです。

このようなことはすべて，自分から進んで時間を取るか否かにかかっています。なぜなら，日々思いを新たにして取り組まなければならない問題だからです。こうすれば新鮮な見方ができて，心が満たされることでしょう。また生活に新しい指針が得られ，日々啓示さえ受けることができるでしょう。

このように深く考える習慣を見につければ，福音や自分の使命，また神の栄光について，真実の深い理解が得られます。また，思案を重ねると，聖霊のもたらす快い平安を容易に心に受けて，自分の存在を真理で照らすことができるようになります。それは福音の栄光，英知の栄光です。私はそのことを経験し，何ものにも換えがたい喜びと感激に満たされました。

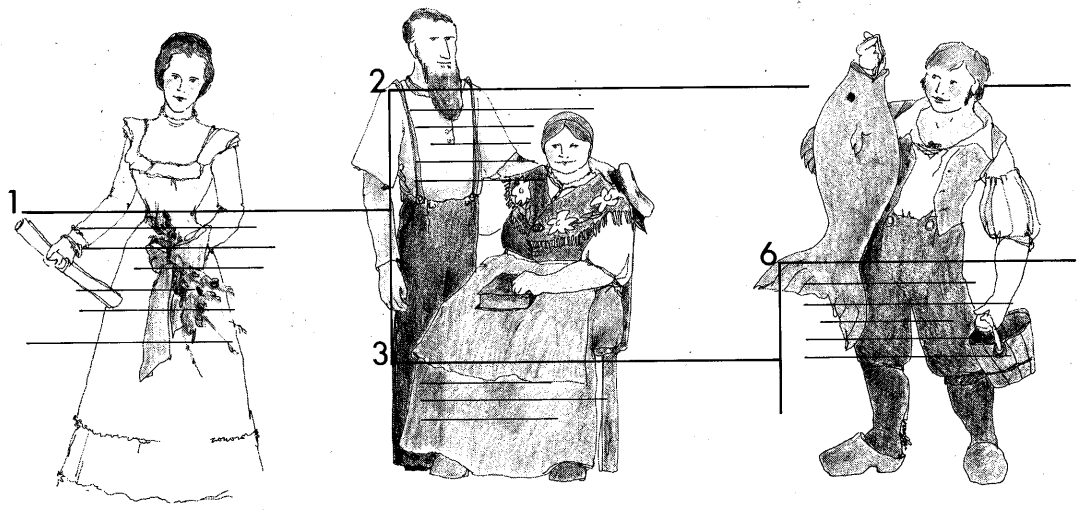
「汝の心を内に燃やさん。」（教義と聖約9：8）

「その光は，汝らの眼を明るくする彼によりて来り。而もまた汝らの理解を生かす光と同じ光なり。」（教義と聖約88：11）

愛する予言者，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は言いました。「私はこれまでの生涯，福音の原則を研究し，思索を重ね，主の律法に従おうと努めてきた。その結果，主とそのみ業と，また地上で主の目的を推進しようと努めるすべての人々に対する大きな愛が心の中に湧いてきた。」（*Conference Report*「大会報告」1971年10月，p.6）

深く考える時間を取って下さい。それが，この現世で想像を絶する喜びと知識とを得る鍵なのです。

「われこれらの言を汝らに残すは，われ近きに在る間に汝らわれを呼べと言うわが与うる誡命を汝らが心の中に思い廻らすためなり。すなわちわれに近づけ，さらばわれ汝らに近づかん。」（教義と聖約88：62－63）




# 愛する先祖たち

リンダ・K・ホフマン

私の友だちが，神殿を浮彫りにした，表紙が厚くて細長い真っ白な本を持ってきて，「覚えの書だよ」と言いました。中にはオルソン・プラットとかジョージ・Q・キャノンとか，ウッドラフやビーズリーなど見覚えのある写真もありました。ペディグリーチャートには王や王妃や公爵の人物寸描があって，その後にはページごとに伝記や自叙伝や逸話や，立派な開拓者たちの話や予言者ジョセフ・スミスとの交流の回想録などがぎっしり書いてあって，ただ驚くだけでした。一緒にページを繰りながら，私はそういう家柄に生まれた彼がうらやましくなりました。私は改宗者なので，そのような生粋のモルモンの家系とは無縁でした。「恐れず来たれ聖徒」の歌詞を知ったときにそう思いました。私の先祖はヨーロッパかどこかの農民で，これといった遺産など何もありませんでした。

「リンダ，ぼく君がうらやましいよ。」勝手に夢想にふけっていた私に水をさすようなことを言って，友だちは本を閉じ，先を続けました。「ここにあるのはみんな別の人がしたことなんだ。日付も話も写真も，セントジョージにいるまたまたいとこの人がまとめたんだよ。でも君は白紙から始めて，自分で見つけていくんだもんね。先祖たちがどんなに身近に感じられるようになるか，考えてごらん。自分でその人たちのことを知るんだよ。」

自分の先祖たちのことを知る！それまで全く考えてもみないことでした。先祖は立派でなくても偉くなくても別にかまわない。私の先祖なのだから。そして私は，その人たちの血を受けている。私はうらやましく思ったことを悔い改めて，家路を急ぎました。エライジャのみたまに包まれて，手には白紙のペディグリーチャートを何枚か握りしめながら。

両親と私自身の記入はできましたが，祖父母から先はあまり名前がわかりませんでした。でもそのとき，母がホフマン家伝来の物を入れた箱のことを話していたのを思い出しました。はたして我家の地下室には，ほこりをかぶって19世紀の匂いがするようなタバコ入れの箱がふたつ，古タイヤの後ろに押し込まれていました。私は宝の箱を見つけたのです！冷たいコンクリートの床にぺたんとすわって，金物やホースや鋳物に囲まれながら，私は自分の先祖と対面を始めました。その箱の中には，曽祖父の死亡告示が載っている1907年の新聞の切抜きや，1883年にスウェーデンで大おじがもらった通信簿，30センチほどに切った祖母の金髪，5代に渡って親の名前が裏に図示してある封筒，ラベルはないけれどたくさんの写真，1860年頃曽祖父母がスウェーデンで交際していた当時の手紙の，さわったら壊れそうな小さな束などが入っていました。私はかび臭くて湿っぽい地下室で，涙ながらに感謝の祈りを捧げました。そして祈りながら，自分はひとりぼっちではないことを知りました。

それからの数ヵ月，私はその宝物を調べました。母からは家族について思い出せることを全部聞き出しました。母は写真のラベル張りや家族関係の整理を手伝ってくれました。私はスウェーデンの昔の習慣を勉強しました。先祖が住んでいたあたりの古い地図を調べ，スウェーデン民謡を聞き，スウェーデン語も少し勉強しました。先祖が実際にどういう人たちだったのかということがわかってきました。

ゲルダという人は母方の祖母ですが，感受性が豊かで働き者の美しい看護婦でした。カール・ヨハンはふさふさのあごひげの駅長さんで，弁護士のように助言をしたり争いごとを鎮めたりしていました。カール・ヨハンの妻のマリア・クリスチナはずんぐり太った頑丈そうな人で，夫を心から愛し，聖書をよく勉強していました。アグネス・シグリド・アルフレダはポリオの予防接種の実験期に，接種を志願して不幸にも不具になった人です。また，曽祖父の父のアンダースは1880年にこのように書いています。「もし今できることなら，主が，健康をお恵み下されば君に会いに，釣糸と木靴の材料を持って行きたいものだ」　私はこのような先祖をみんな，生きている人のように，自分の親のように大好きだと思いました。

でもまだ，ペディグリーチャートは空白でした。やがて，入手した日付や場所を持って行って，儀式ができるように証明する日がやってきました。マイクロフィルムに撮られた誕生記録を1巻き1巻きズームアップして，丸1日半，違う州や郡や町や別の年を，マイクロフィルムリーダーにへきえきして操作がいやになるほど見続けたあげく，ようやく見慣れた名前が見つかりました。「ゲルダ・レジナ1880年3月22日，父－カール・ヨハン・ニルソン，母－マリアクリスチナ・ヤンデルスドッテル」祖母の誕生記録が見つかったのです！私はまた感謝の祈りを捧げました。そのときにも，自分がひとりぼっちではないことを知りました。それから何時間もかかって違うリールを幾つも見て，調べた名前で照合できるものは全部照合がすみ，これから調べなければならない新しい名前も集まりました。私は記入欄に書き込み，確かめなおして，心から愛している人たちのための手続きにそれをソルトレーク・シティに送りました。

系図調べを続けるときに，私はダニエル・ウエブスター（アメリカの政治家）の次の言葉を思い出します。

「先祖との契りを深め，その模範に思いをはせながら人柄を学び，情を共にし，精神を吸収し，労苦をしのび，苦難を思いやり，成功や勝利は喜ぶことによって，自己と先祖の存在は混交し，彼らの時代にいる思いすらする。私たちは先祖の同時代人となり，彼らの人生を生き，彼らの耐えたことを耐え，彼らの享受した喜びにあずかる。」

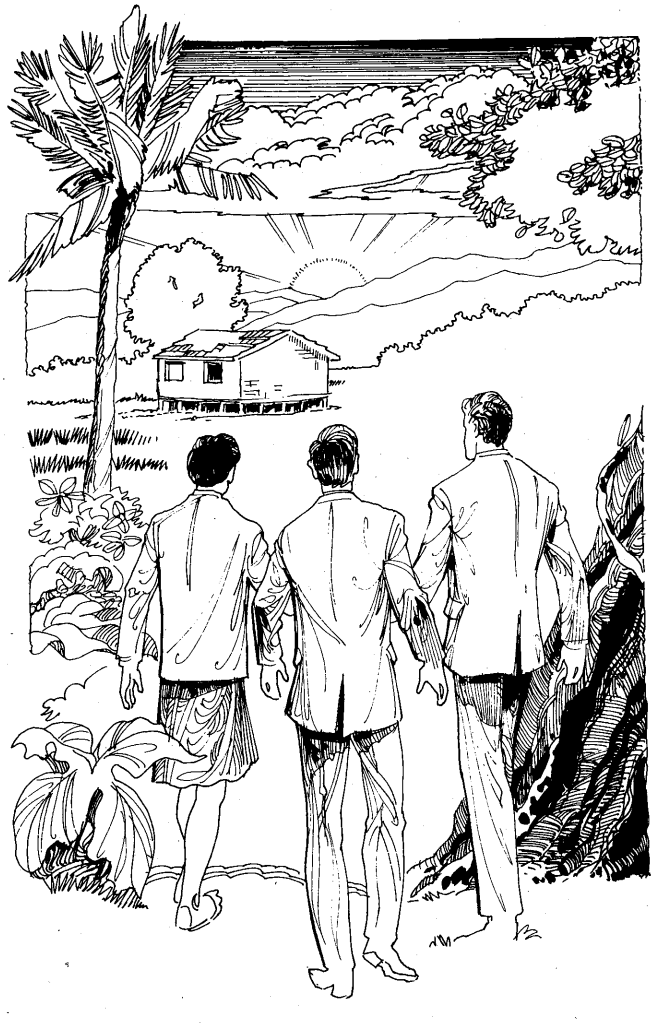
私たちがイエス・キリスト教会の会員として，神権の儀式によって結び固めの力にあずかる恵みを先祖にも分けてあげられるのは，何と素晴らしい特権でしょうか。私はエライジャのみたまが，何にも代えがたく貴いものであることを知りました。私は今，自分の先祖たちを知っていますし，愛しています。白い衣装をつけて水の中に立ち，立派な神権者が何回も「リンダ・ケイ・ホフマン姉妹，われはイエス・キリストより権能を受けたれば，天父と御子と聖霊との御名によりて，すでにこの世を去りしゲルダ・レジナ・ネルソンの身代りとして汝にバプテスマを施す……」と言ったとき，私は先祖の存在を実感として感じました。だれかがその身代りの儀式を受け入れていることを，私は神聖な方法によって，はっきり確信しています。私の先祖は偉い人でも高貴な人でもありません。でも彼らは今も永遠にも私の先祖ですし，私は彼らの子孫なのです。

# ジャワの小さな村に見た信仰

ゲイレン・S・ガー

同僚のロバート・ブラウン長老とジャワ島にあるスラバヤ市で働いていた時のことである。ジャワ島はインドネシア・ジャカルタ伝道部に属する。帰宅したばかりで，夜の常食となっていたマルタバク（ピーナツとチョコレートを入れたパンケーキの一種）の用意をしていると，雇い人のソーキミン（彼も長老であった）が入ってきて，たった今，いとこが重病だという手紙が届いたと言った。手紙には，あらゆる手を尽くしたが，もう手遅れだと医者に言われたことが書いてあった。

ソーキミンの話を聞いた後，私たちは何か手伝えることがないか彼に尋ねた。すると彼は，村まで一緒に来ていとこを祝福して下さいと答えた。私たちが承知して，いつ出かけたらよいかと聞くと，「明朝ではどうでしょう」と言う。私たちがそうしますと答えると，彼は私をわしづかみにして，「ありがとう，ありがとう，これでいとこは助かります」と言った。私たちは彼の信仰にひどく胸を打たれた。



翌朝は4時に起き，3時間半かかってバスでソーキミンの村へ行った。田んぼに囲まれた小さな農村だった。ソーキミンの家は竹ぶきの壁の小さな小屋だった。病気のいとこは，本当に今にも死にそうな様子でベッドに横たわっていた。

私たちはいとこに，自分たちが何者で，何のために来たかを説明し，祝福を受けたいかどうか尋ねた。すると彼は受けたいと答えた。

私たちは彼に油を注いで祝福してから帰り支度をした。しかし，私たちが来たことが村中に知れ渡っていた。そして人々は病人を連れて来ると，祝福を求めた。ひとり，またひとり，そしてもうひとりとやってきた。祝福を施していると，主の時代に貧者たちが病人を連れて来て祝福を求めた様子が，まざまざと頭に浮かんだ。福音が宣べ伝えられる地では必ずこうであると，私は考えた。その日，東部ジャワのあの小さな村で私たちは神権の力を悟り，それが民の間に引き起こした信仰に心がへりくだる思いだった。帰宅して数日後，ソーキミンはいとこが全快したという手紙を受け取った。

# 「しっ，静かに。逃がしてあげましょう」

C・V・スペンサー

牧師たちは長い間秘密組織を作り，結束を固めてきたが，やがて大胆になってきた。私が地方部の各支部を巡回していた時のこと，路上で，イギリスのノーリッチで何か悪いことが起きていると警告を受けた。私はすぐさまノーリッチに向かった。ところが，自分の部屋まで行かないうちにふたりの兄弟に会った。彼らの言うことには，「セントアンドリュースホールで反モルモンの大きな集会がある」とのことであった。

私は返事をした。「結構だ。支度をしてから，私も出かけよう。」　兄弟たちやその他出会った人々は，口々に行かないでくれと言った。

ホールに着くと，会場には人がいっぱいで，すわる席がなかった。壇上を見ると，ノーフォークとサフォークのそうそうたる牧師が17人ほど，深々と椅子にすわっていた。私は「自分も聖職者だ。あそこに座ってよかろう」と考えた。そこで壇上に上がり，腰をおろした。その集会には2

千人が出席していた。当時セントアンドリュースホールはイギリスでも3本の指に入るほどの立派なホールであった。

会は午後の2時半頃に始まっていて，私が入って行ったのは5時頃だった。8時半になって司会者が，今日ノーリッチの市民たちを対象に行なわれた自分たちの組織の堂々たる公開のあとで，反撃を試みる度胸と不敵さを持った，哀れなモルモン教会の会員がこの会場にもしいるならば，話の機会を与えると発表した。全会衆の目が私に注がれたことは言うまでもない。この誘いは牧師たちの仕掛けたわなだった。私は前から6列目の席で，どの列も反対者たちでいっぱいで，その上ひとりも通り道を作ってくれなかったため，説教壇に上がることができなかった。私は祈った後，前のふたりの牧師の頭に手をかけてわきへどかせ，彼らの座席に飛び乗った。そのようにして私は説教壇まで行った。

言ったことの大半はその時も覚えていないし，今でも思い出せないが，話の終わり近くには会場に背を向けて説教者たちに向かって話していた。彼らに面と向かって言った言葉の最後はこうだった。「あなた方は不信者だ。不信者を作っているのはあなた方だ。自分たちの思想で，キリストや使徒たちの約束された賜と祝福にあずかる望みをもみ消している。私は主イエス・キリストのみ名によってあなた方に予言する。今日のあなた方の労苦は，私の説く福音に何百人もの人を帰依させることになるでしょう。」

私が語り終えた後，司会者はモルモン経から読もうとしたが，読むことができずぶるぶる震えた。また別の者も読もうとしたが，同じようになって断念せざるを得なかった。

私の立っていた所から玄関に通じる階段があり，私は集会後早々にそこから退散しようと思っていた。しかし，そこに行くといっぱいの人であった。いや人というより悪魔のようだった。彼らは，「やつはどこだ。八つ裂きにしろ。川へ投げ込め」などと叫んでいた。

ほかのみんなが私を捜しまわっている中で，マントを着た背の高い男が私を見つけた。彼は近づいて来ると私をマントですっぽり覆い，さっと私を脇に抱き寄せると，ささやいた。「しっ，静かに。逃がしてあげましょう。」彼は群衆が押しあいへしあいしている中を，私を玄関から中庭へ，そしてさらに通りを1丁ほど離れた所まで連れ出してくれた。私を助けてくれたその人はその通りを自分の家に向かった。そして家にたどり着くと石壁にはまったドアをどんと突いた。ドアはパタンと開いて，彼は私をさっと中に押し込み，またそのまま群衆と一緒に通り過ぎて行った。45分ほどして，彼はモルモンを数人連れて帰ってきた。こうして私は救い出され，守られながら帰宅したのであった。その翌日，私は手に入る限りで最上の教会出版物をこの人に贈呈した。どうして命を助けてくれたのかわけを尋ねると，ひたすら正義を愛するがためというのが彼の返事だった。

この出来事があってから，伝道の業はかつてなく進展した。教会堂は文字通りすし詰めになり，片側の窓全部を取り払って，持ってきた厚板で建物に沿って腰かけ台を作る人も出た。また，夜の集会後に出かけて，17人にバプテスマを施すなど，この時期におびただしい数の改宗があった。

（クローディアス・ビクター・スペンサー　1824年4月2日，マサチューセッツ州ウエストストックブリッジの生まれ。1847年9月23日，ユタに移住。専従農民で，1856年に准州議会議員となり，またソルトレーク・シティー市会議員として，街路管理担当委員。英国に2度，合衆国内で2度伝道した。1910年3月5日死亡。当時，20人の子供と38人の孫と6人のひ孫がいた。）

# 心の目

## 青年

青年時代とはいつのことだろう。青年とはだれのことだろう。青年時代は足早に過ぎ去る。決して永遠に続くことはない。それは他の時代とて同じ。そして青年が社会の中にあって特に優遇を受けることもなければ，冷遇されることもない。なぜなら，他のすべての時代がそうであるように，だれもがこの青年時代を通るからだ。

青年に言いたい。君たちが「老人」と呼ばれる日はそう先のことではない。その時君に従う者たちは，君が人生で何を成し遂げたかを尋ねるだろう。今の君のように。

覚えておいて欲しい。時は嵐のように押し寄せ，君を十代から二十代へ，二十代から三十代，四十代へと，またたく間に押し上げてしまうだろう。そしてふと我に返ると，もう「老人」と呼ばれる人々の中に入っているのだ。そのとき君は何を見るだろう。何を思うだろう。

永遠に青年でいられる人はだれもいない。青年時代は回廊のようなもの。そこに長くとどまることはできない。休む場所はないのだ。そして私たちは皆老若を問わず互いに尊敬し合う必要がある。それは，私たちの力はあるひとつの世代から得られるのではなく，人生全体をどれだけ有益に過ごせたかにかかっているからである。

青年とはだれのことだろう。青年時代とはいつのことだろう。それは，何かのクラブのように，入れば永遠にその地位を保証されるというものではない。そうではなく，人生の中でだれもが，しかもまたたく間に通り過ぎるひとつの期間にすぎないのだ。

ああ，愛する若き友よ，人生は永遠であるが，若き歳月は長くは続かないことを忘れないで欲しい。若き日々の思い出が，君の生涯に恵みをもたらすものとならんことを。

リチャード・L・エバンズ

## 1,113組の夫婦の中から何組が？

永遠の生命に入るためには，聖なる神権の誓約を受け入れ，かつ実際にその誓約を結ばなければならない。すなわち神の聖なる神殿で自分のエンダウメントを受け，永遠の結婚の聖約を結ばなければならないのである。

私はこれまで，毎日数多くの夫婦が，ソルトレーク神殿で結婚するために列をなしてやって来る光景を見てきている。例えば，1973年8月の1ヵ月間だけで，1,113組の夫婦がこの神殿を訪れて，神聖な儀式を受けた。永遠の生命にあずかるには欠かすことのできない儀式である。

私はそうした結婚の儀式を何度か執り行なってきたが，その度ごとに，結婚するカップルに次のように言ってきた。「私たちはあなた方に儀式を施すことはできます。しかし，永遠の結婚を約束することはできません。それは，あなた方の決めることですし，あなた方の仕事です。あなた方が自分で獲得しなければならないものなのです。終わりまで義しく耐え忍ばねばなりません。ただ単に神殿へ来たというだけで得られるものは何もないのです。自ら得ようとしなければ，何も得られないのです。生涯の終わりまで，義しい生活をし続けなければなりません。『神の口より出るすべての言によりて』(教義と聖約84：44) 生活しなければならないのです。」

ソルトレーク神殿長
ジョン・K・エドマンズ

ブリガム・ヤング大学における講話（1974年2月26日）

## もう一歩の努力を

皆さんの中に，男女を問わず，自分の掲げる理想や何か特別な目標に到達しようとしながら，一見，自分の側の非で失敗したが故に失望している人はいないだろうか。また敗北や失望の連続で挫折寸前にまで追い込まれている人はいないだろうか。そのような人はエルバート・ハバードの勧告を思い起こして欲しい。彼は，失敗と成功の差はほんの紙一重であり，もう一歩努力しさえすれば，敗色の濃い中からでも勝利をつかむことができると言っている。

七十人第一定員会会長
ポール・H・ダン

ブリガム・ヤング大学における講話（1974年11月5日）

のパネルを3,000枚も作るんです。これができ上がると，神殿の外壁にぴったりはまるわけですね。パネル一つ一つの誤差は400分の1インチ（約100分の6ミリ）以下です。』

この建設プロジェクトの主任はロス・ジェンセン。彼はこれまでに13年間，4つの建設事業に従事し，ブラジルとチリの教会堂建設も手がけている。

神殿は美しいだけではない。終わりの日まで耐えられるように，耐震構造が採用されている。この耐震構造について，工事に携わった専門家は首をひねった。ブラジルは地震とは縁のない国だというのが定説だったからである。ところが最近，サンパウロの中心部に小さい地震が起き，翌日の新聞には著名な科学者が署名入りで，近く将来サンパウロ地区にもっと強い地震が，しかもひんぱんに起きるという予測を発表した。また地質学的に見ても地震の起きやすい構造であることが指摘されたのである。

以上のように，南米で初めての神殿の建設工事は，各方面に反響を残しながら着々と進められている。

# リバティーでのハイラム・スミスの日記発見さる

ハイラム・スミスがリバティーの牢獄に捕らわれていた時に書いた，小さなポケット版の手書きの日記が，今，教会歴史部記録保管庫に収められている。

ハイラム・スミス独特の書体で書かれたこの日記は，ジョセフ・フィールディング・スミス大管長の遺品の中から見つかったもので，家族により教会に寄贈された。

日記にはメアリー・フィールディング・スミスとハイラム・スミスの手紙もついており，手紙の方はジョセフ・F・スミスが集めたものである。1880年代にスーザン・ヤング・ゲイトが手紙のひとつを他に引用しているが，それを除けばこれらが引用により衆目に触れたことは皆無である。

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長は，父親からこの日記を受け取った。教会歴史部では日記と手紙を出版する予定である。

日記の中から一部を紹介しよう。

「1838年10月29日，暴徒により捕らえられ，現ミズーリ州知事であるリルバーン・W・ボッグスから命を受けたと称する武装した男たちにジャクソン郡まで護送された。

そこで4日間監禁された後，クラーク将軍の命令によりジャクソン郡からレイ郡リッチモンドまで護送。着いてみると，大勢の兄弟たちが強力な監視態勢のもとで審問に付されるのを待っていた。そして巡回裁判所判事による審問が始まった。裁判長の名はオースティン・A・キング，メソジスト派の牧師である。

長い審問の末，私は他の数人の人々と共に投獄されることになった。この宗教を信仰しているかどである。迫害者たちは私が反逆の罪を犯していると偽証した。これは神の御子に対するあの偽証と同じではないか。この世が邪悪なるが故にこうなるのである。」

「彼らは酔っていた。ぶどう酒や酒でではない。邪悪と憎悪に酔っていたのである。今日は3月15日，私たちは今監禁されている。多くの人が好奇心から私たちを見に来る。まるで象を見るときのような目つきだ。

私と一緒に監禁されたのは弟のジョセフ，ライマン・ワイト兄弟，C・ボルドウィン，A・マクレイ，それにシドニー・リグドンだが，シドニー・リグドンは2月5日頃，人身保護令状が発令されたためターナン判事の手により釈放された。」

「今朝の看守の行状は全く気違いじみた醜悪なものであった。町の子供たちを呼んできてドアをどんどんたたかせ，言いたい放題のことを言わせたのである。『出てこい。殺してやる。祈ってみろよ。予言してみろ，ペテン師め。』投獄されていた間，私たちは四六時中こうした仕打ちを受けた。神はこうした所業をことごとくお覚えになり，再臨の時に恐るべき応報を下されるであろう。否，再臨を待たずに下されるかも知れない。」

「4月6日に出獄した私たちは，15人の監視つきでデービス郡へ護送された。夜はずっとプラッツバーグにとどまる。ジョセフ・ホーン兄弟に会った。皆上きげんである。監視のひとりはギデオン・H・ジョンソン，もうひとりはジェイクス・H・フォードという名であった。7日の日曜日，私たちはテイラー夫人宅に世話になる。かなり疲れている。」

「4月8日，月曜日，正午頃にゲールトンに到着。」

## マカオに宣教師派遣

香港と湾をはさんで対するポルトガル領マカオで，宣教師が福音を教えている。マカオは中国広東州の半島の突端にあり，ジェリー・D・ウィート伝道部長管理の下，香港伝道部に属する。

4名の長老が初めて派遣されたのは1976年9月6日で，マカオ政府が法律を改正し，教会の集会開催や説教，布教の自由が認められることになったためである。

マカオは住宅難で宣教師のアパートを見つけることができるかどうか危ぶまれたが，主は不思議な方法で道を開きたもうた。スタンレー・TC・ワン長老は次のように語ってくれた。

「私たちはまず自転車を貸してくれる所を捜しましたが，とにかくマカオは初めて，それも英語しかわからないので，どうすることもできませんでした。仕方なく食堂に入って新聞を見ると，アパートの広告が幾つか出ています。私たちはその中からひとつを選んで電話しました。」

アパートを見たウィート伝道部長は，そここそ福音を宣べ伝える宣教師が住む場所であると心に感じ，家主にそのむねを伝えた。しかし，家主の側では見ず知らずの，しかも1時間したら香港へ帰り，また出直してくるというアメリカ人に貸すわけにはいかず，マカオに住む人をだれか保証人に立てて欲しいと言ってきた。初めての地に保証人などいるはずがない。そこで伝道部長が事情を詳しく説明すると，不思議なことに家主は，保証人なしで貸してくれただけでなく，宣教師たちのために家具も提供してくれたのである。

こうして昨年の9月6日に伝道が開始され，長老たちはポルトガル人，インドネシア人，それに中国人の家族に福音を教え，最初の2ヵ月でモルモン経を24冊売ることができた。

## タイ語のモルモン経完成する

大管長会は，タイ語のモルモン経の初版3,000部が1976年10月17日，タイの首都バンコックで印刷されたと発表した。これによって，タイ語を母国語とする3,000万の人々がその恩恵にあずかることになる。翻訳が割り当てられたのは1969年11月15日で，翻訳，校閲，タイプ，編集，校正には9人が携わり，7年以上の歳月を要する大事業であった。タイ語のモルモン経は，1972年に出版されたアフリカ語のモルモン経に次ぐものである。このほか，ベトナム語とギリシア語のモルモン経も間もなく出版されることになっている。

モルモン経は現在，英語を除いて19ヵ国語に翻訳されている。

## 教会教育施設入学希望者との面接

大学，高校を問わず，教会教育施設への入学の推薦を受ける人は，各施設における末日聖徒の標準に完全に従うことを承諾しなければなりません。入学希望者は全員入念な面接を受け，学則ならびに服装と身だしなみの規準一つ一つについて，現在それらを守っており，また今後も進んで守ろうとしていることを証明する必要があります。具体的な学則と規準は面接を担当する役員が持っている書類に記載されており，すべて大管長会ならびに十二使徒評議員会の全面的な承認を得たものです。教会教育施設に学ぶ人々に寄せられている特別な期待を考えてみた場合，大勢の人々が築き上げ，また信頼を寄せている特別な環境を損う恐れのある人に対して入学を推薦することは，たとえそれが更生を意図したものであったとしても，重大な誤りであると言えます。

教会の方針と発表

### 不当な金銭の請求

最近ある帰還宣教師たちに，伝道地で知り合った人々から不当な金銭の請求がきているという報告を受けた。そのほか，宣教師の親たちにも，息子もしくは娘が伝道地で交際があったという人々から金銭の要求がきている。

伝道活動の際関係した人から，妥当性を欠く金銭の請求あるいは真ぴょう性を欠く金銭の要求を受けた場合は，伝道管理部に連絡していただきたい。（十二使徒評議員会事務局）

### ステーキ部大会の音楽

ステーキ部大会の音楽は4曲までに限定する。その内の開会の讃美歌と中間の讃美歌は全員で歌うようにする。従って，よく知られている讃美歌を選ぶ必要がある。また他の2曲は聖歌隊が歌ってもよいが，その内の少なくとも1曲は末日聖徒の讃美歌とする。ワード部聖歌隊，合同聖歌隊，扶助協会，青少年，神権者等，いずれの聖歌隊に依頼してもよい。特に子供の合唱は，大会に全家族を参加させるのに効果があるであろう。

ステーキ部音楽委員長は，ステーキ部長会とステーキ部音楽アドバイザーの指示の下に，大会に先立って音楽の準備をする。

大会の前後に，前奏と後奏も行なうようにしていただきたい。そのための曲として讃美歌が適当であるが，その他のふさわしい曲があればそれを用いてもよい。（十二使徒評議員会事務局）

### 伝道地への訪問

これまでの長年の経験から考えて，宣教師が家族に電話すること，また友人に電話をかけることは望ましくない。それ以上に伝道の熱意をそぐのは，両親と親戚の伝道地の訪問である。このような訪問や電話は避けるようにしていただきたい。訪問したり，電話をかけたりする場合は，事前に伝道部長の許可を求めるようにしていただきたい。（伝道役員会）

以上は1976年11月12日付けの「メッセージ」に記載されています。

# 我が生涯における素晴らしい日

日本福岡伝道部
那覇支部
武富　宏

私の家族は，子供4人（男3人女ひとり）の6人家族でありますが，子供4人のうち長男を除いて3人はすでにバプテスマを受けて5年以上にもなります。従って私は子供たちの感化を受けて末日聖徒イエス・キリスト教会のことは知っていました。

私は元来無神論者を自称していました。子供たちがイエス・キリストのありがたい福音のことや予言者ジョセフ・スミスを通じて神様が教えたもうたモルモン経について話をしてくれますが，これらのことは私にとって全く無縁のもので，関心がなかったばかりか神の存在なんて考えたこともなかったのです。

ところが私たち家族にとって震天動地の出来事が突如として起きました。それは去年の10月29日のことであります。私の長男である俊夫が急病で倒れて意識不明のまま入院しました。2，3日も生死の境を彷徨するほどの重病で，私たち家族の者は驚きと恐怖におののきながらも，ひたすら神様におすがりしてなんとか生命をとりとめたいと一生懸命にお祈りしました。「苦しい時の神頼み」という言葉通り，私は初めて神にお祈りしました。また多くの兄弟姉妹たちも遠いところから病院まで見舞に来られて，私たち家族のために心をこめてお祈りをして下さいました。なんと霊験あらたかなることよ，その証はすぐに現われました。実に4日目にして意識が回復し，入院して40日目には退院の運びとなったのです。一時は医者からも見放されていた長男の病気が回復したのです。真実の神の愛が奇跡を起こさせたのです。私は何度も両手を合せて神様に感謝いたしました。そして神は私たちのお祈りに対しては必ず報いて下さることも体験致しました。

それ以来私たち家族は，神への感謝と祝福のために毎朝お祈りをし，また毎週月曜日には「家庭の夕べ」で家族のための主の計画を話し合う機会を持つことができました。

その後宣教師からレッスン（主として私たち夫婦と長男）を受けるようになり，家族ぐるみでキリストを信じ，信仰の道に入ったのです。私たちは，イエス・キリストの教会には救いに必要なすべての権能と真理があることを教わりました。私たちが教会の指導者の勧告に従って神の戒めを守り，それぞれの責任を果たしていくならば，必ず神の救いが得られることを知りました。

私は若い時からお酒が大好きで，これまで毎日晩酌を欠かしたことはありませんでした。それにヘビースモーカーでもあります。30年来の酒とタバコで私の身体はむしばまれています。私はバプテスマを受けるためにはまず私の身体を汚している酒とタバコを絶って聖い「みたま」を受け入れるようにしなければなりません。いよいよ11月20日は私たち夫婦がバプテスマを受ける日です。そこで私は一大決意の下に11月1日から禁酒禁煙を断行致しましたが，酒とタバコは麻薬と同じで，その日から禁断症状は否応なしに私を苦しめました。頭が重くいらいらして，思考力は日を追って減退するばかりです。私はバプテスマを受けることを断念しようと思いましたが，妻や子供たちの励ましと協力によって苦しみに耐えている内に，10日頃から次第に体の調子も良くなり，頭の重さも取れて，完全に禁断症状から脱出することができました。

ついに妻と共にイエス・キリストの福音を信じてバプテスマを受ける日がやって来ました。多くの兄弟姉妹たちの祝福を全身に受けながら，私は罪の赦しを受けるために神の僕の手によって水に沈められ，按手礼によって聖霊の賜を授けられました。その時は身も心も最高に引き締まるような思いが致しました。私の生涯においてまたとない素晴らしい一日でした。

私は，これからも永遠の父なる神様とその御子イエス・キリストと聖霊を信じて自らの良心に従い，神の戒を守り，誘惑に打ち勝って最後まで多くのことに耐え抜いていくことを証します。

これで6人家族のうち5人まではバプテスマを受けて神の息子，娘となりました。残るは，病気を克服して一生懸命生き抜こうと努力している長男ひとりです。彼が神の祝福によって一日も早くバプテスマを受けられるようになることを，イエス・キリストのみ名によりお祈り致します。アーメン。

# あなたの証を
# 世界中の人々に

教会員であることの大きな祝福のひとつは，互いに強め合い，高め合うことができるということです。本誌では，証が強められた霊感あふれる体験談や，他の教会員にも分かち与えられるような証を求めています。それは，完璧な記事である必要はありません。ちょっとした出来事でも結構ですし物語でもかまいません。次のようなものはどうでしょうか。

| | |
|---|---|
| 聖典を読んで | 改宗 |
| 教会役員として働いて | 活発化 |
| 補助組織で教えて | 他の会員からの個人的な助け |
| ホームティーチング | 神権定員会の業績 |
| 家庭訪問 | 祈りに対する特別な証や答え |
| 家庭の夕べ | 系図探求上の経験 |
| 伝道活動 | 親子間の霊的なひととき |

他にも何かよい考えや話題があったら，提案していただきたいと思います。大切なことは，自分にも，何か他の人の役に立つような大切なものがあるということを認識することです。自分自身について，しばらく考えてみて下さい。教会誌に掲載されるような記事を書く人の大半は，ごく普通の教会員です。ただ，自分たちの知った，あるいは体験した霊感あふれる出来事を，他の人々とも分かち合いたいと願っただけなのです。宛先は以下の通りです。

〒106　東京都港区南麻布５－８－８
末日聖徒イエス・キリスト教会
翻訳事業部
八木沼　修一

聖 徒 の 道

197 20日発行（毎月1回20日発行） 第21巻第3号
昭和 2月18日第3種郵便物認可